平成 27 年度採択文部科学省
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築

平成 28 年度　事業成果報告書

平成 29 年 3 月

紀の国大学

は　じ　め　に

－紀の国大学協議会会長からのごあいさつ－

平成 27 年度の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、和歌山大学を事業主体とした「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」が採択されました。

本事業では、和歌山県内の高等教育機関の力を結集するとともに、隣接する大阪府内の総合大学、及び和歌山県をはじめとする県内自治体、県内の企業・金融機関が協力して“紀の国大学”を構築し、地域の人々・企業・自治体を元気にする人材、地元で活躍できる人材の育成を目指しております。

平成 28 年 4 月にスタートいたしました“紀の国大学”では、和歌山県の施策である「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対応させた、県の強みを活かす 4 つの教育テーマ（①6 次産業化②商品・技術開発③移住先進地の再興④命と生活のインフラ）を設定し、地元就職、雇用創出、定住人口の増加に寄与するための教育プログラム「わかやま未来学副専攻」を導入し、県下全域でフィールド型講義を展開する取り組みを行って参りました。

このたび、これらの取り組みにつきまして、平成 28 年度におけるＣＯＣ＋事業成果報告書を発刊することになりました。
“紀の国大学”の取り組みが皆様のご参考になれば幸いです。

COC+事業を進めるにあたり、地域の皆様の多大なるご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

和歌山大学　第 16 代学長

瀧 寛和

目次

1. 事業概要 1
【1】文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の説明 1
【2】紀の国大学の事業概要 2
2. 実施体制 4
【1】地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施体制 4
【2】実施体制 5
【3】専任教員 6
【4】協定書関係 7
1. 地方創生に係る包括連携に関する協定書 7
2. 田辺市 8
3. 紀美野町 9
4. 大阪府立大学 10
5. 大正大学 11
3. 教育プログラム開発 12
【1】めざす人材像 12
【2】副専攻プログラム構成 13
1. 地域協働セミナー（「わかやま学」群） 13
2. 6 つのプロジェクト 15
3. スタートアップセミナーの実施内容等 28
4. 地域連携・創業支援 29
【1】インターンシップ拡充に向けた取り組み 29
【2】インターンシップの取り組み実績 31
【3】創業支援ファンド設立に向けた取り組み 32
【4】和歌山の企業で働く魅力が分かる［企業×学生］交流会 32
5. 事業評価・FD 33
【1】事業評価・FD 委員会議事要旨 33
【2】学生自主演習合同研修 34
1. 第 1 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修） 34
2. 第 2 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修） 35
3. 第 3 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修） 36
【3】全学 FD・SD 研修会 37
6. その他の取り組み 38
【1】副専攻周知活動 38
【2】第 12 回和歌山大学教育研究集会「ワダイ夢活フォーラム」 40
【3】座談会（ワダイノカフェ）「地元」を選ぶ理由とは？－暮らしと地域の関係性－ 41

【4】わかやま未来学シンポジウム「わかやま未来学」を考える 43
【5】分析・評価（「わかやま」学群、地域協働セミナー受講生アンケート） 44
【6】就職動向 54
【7】視察（県外） 55
7. 紀の国大学参加校の取り組み 57
【1】プロジェクトマップ（全体図） 57
【2】参加大学の取り組み 58
1. 大阪市立大学 58
2. 大阪府立大学 63
3. 摂南大学 65
4. 和歌山工業高等専門学校 67
5. 和歌山信愛女子短期大学 69
6. 関西大学 71
【3】参加自治体・参加企業の取り組み 72
1. 自治体：和歌山県 72
2. 自治体：橋本市・紀陽銀行 73
3. 和歌山県経営者協会 74
参考資料 75
【1】委員会規約・規程 75
1. 紀の国大学協議会規約 75
2. 教育プログラム開発委員会規程 77
3. 事業評価・FD 委員会規程 79
4. COC＋推進委員会規程（和歌山大学内） 81
【2】紀の国大学協議会事業評価実施要項 83
【3】委員名簿 85
1. 紀の国大学協議会 85
2. 教育プログラム開発委員会 86
3. カリキュラム部会 87
4.　地域連携・創業支援部会 88
5.　事業評価・FD 委員会／専門部会 89
6. COC＋推進委員（和歌山大学内） 90
【4】報道実績　（新聞） 91
【5】広報関係（WEB・学生用リーフ・紀の国大学パンフレット） 92
1. 紀の国大学ホームページ 92
2. 紀の国大学パンフレット 93

1. 事業概要

【1】文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+)」の説明

(1) 目的

地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等の観点からは、地方大学が果たす役割に、極めて大きな期待が寄せられている。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+)」は、平成 25 年度からの「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を促進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（COC 事業)」を発展させた事業であり、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする。

(2) 事業実施者

文部科学省

(3) 事業対象

国公私立大学・高等専門学校及び関係団体

(4) 事業期間

平成 27 年度から平成 31 年までの 5 年間

(5) 採択

平成 27 年度は、各大学より 56 件の申請があり、42 件採択

（参画する大学は、延べ 256 校）

【2】紀の国大学の事業概要

（1）事業名

わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築

（2）事業実施機関

和歌山大学

（3）事業協働機関

参加大学	大阪市立大学・大阪府立大学・摂南大学 和歌山工業高等専門学校・和歌山信愛女子短期大学
参加自治体	和歌山県
参加企業等	紀陽銀行・和歌山県経営者協会 和歌山県中小企業団体中央会
協力大学	関西大学・近畿大学・和歌山県立医科大学

（1）目的

和歌山県の深刻な地域課題に向き合いつつ、秀逸な自然環境と文化資源を活かしながら、わかやまの未来を切り拓く若者を育むとともに、新たな雇用を創出し、地域への定着を図ることにより和歌山県域における地方創生に貢献することを目的とする。

（2）概要

事業実施のために和歌山県全域をキャンパスとするネットワーク大学「紀の国大学」を、県内大学・高専と大阪府内の COC 採択の総合大学及び和歌山県、県内企業等の参画を得て構築する。地域の力を借りて地域の課題に即した実践的な**キャリア教育プログラム**（協働教育）を紀の国大学として展開する。和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略から、大学が貢献できる 4 つのテーマ：6 **次産業化／商品・技術開発／移住先進地の再興／命と生活のインフラ**を柱に定め、教育プログラムを構築する。また、4 つのテーマを**ブランディング**が貫く。いずれのテーマにおいても顧客の求める価値を高めることを意識しつつ実践的な教育を体験することで**地元就職増**を果たし、協力する企業等が成長することで雇用創出増を生み、地域の魅力が高まることで移住者も増加し、次第に**定住人口増**に至る。

そのために、和歌山大学では、地域と協働で実践力を鍛える地域協働自主演習及び就職を意識した実践型インターンシップからなる全学共通の副専攻制度である「**わかやま未来学副専攻**」を新設し、1 年次より地域を体験する学修を行うとともに、社会人の県内への U ターン・I ターンに資するため、再チャレンジコー

ス「**わかやま未来塾**」を新設する（将来）。また、和歌山大学から郷土を見つめ郷土への愛着を育む「わかやま」学群を事業協働機関の各大学・高専（以下、COC+参加校）に提供する。さらに、和歌山大学及びCOC+参加校間で県内各地のフィールドを互いに開放し共同教育を行うことで、地域での学生の活動を拡大する。この事業全体を支える組織として「紀の国大学協議会」を設立し、COC+推進コーディネータの下で運営管理するとともに、その成果を県内に広く伝えることが本事業の目的である。

2. 実施体制

【1】地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施体制

【2】実施体制

紀の国大学

1.紀の国大学協議会

2.教育プログラム開発委員会

3.事業評価・FD 委員会

4.カリキュラム部会

5.地域連携・創業支援部会

6.事業評価・FD 部会

和歌山大学（紀の国大学事務局）

7.COC+合同会議

8.COC＋推進室会議

9.月例 MTG

10.定例 MTG

11.テーマ検討 WG

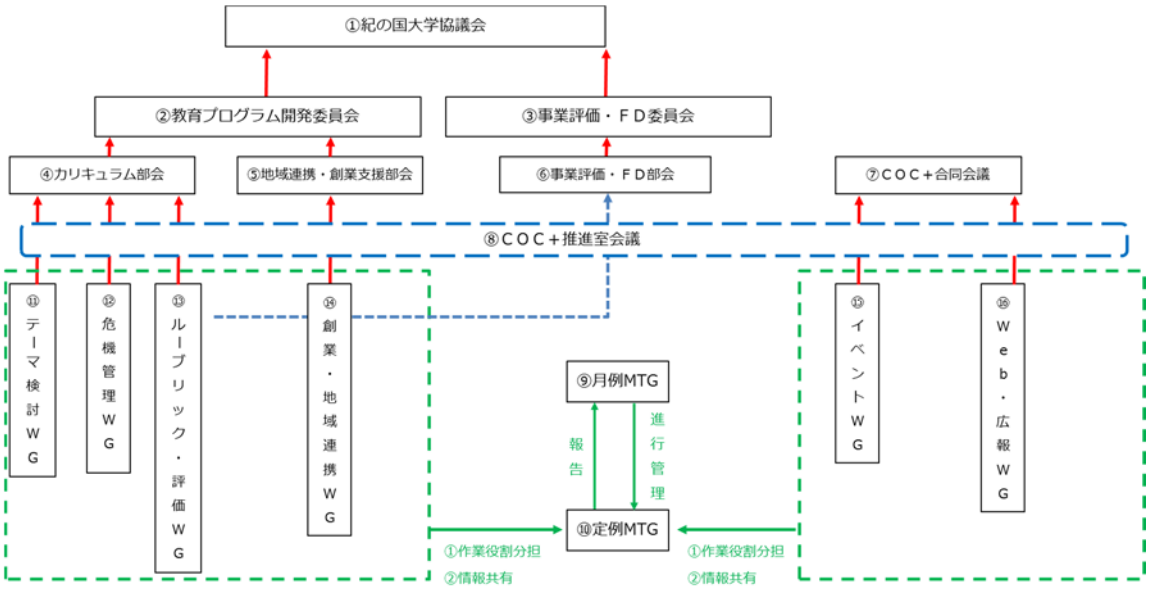
12.危機管理 WG

13.ルーブリック・評価 WG

14.創業支援・地域連携 WG

15.イベント WG

16.Web・広報 WG



【3】専任教員

佐藤祐介（講師）

研 究 分 野：社会教育・生涯学習、天文教育、成人教育

キーワード：科学コミュニケーション、地域住民の生涯学習支援、サイエンスカフェ、科学アウトリーチ、天体観望会

大坪史人（特任助教）

研 究 分 野：農業経済学、協同組合論、マネジメント戦略

キーワード：農協、農産物直売所、6 次産業化、中山間地域島しょ部、地域おこし協力隊

田代優秋（特任助教）

研 究 分 野：農業土木工学、地域資源・自然資源管理、生態系保全

キーワード：農業水路や水田の基盤整備、水辺のイノベーション施設の設計、コミュニティビジネス

冨永哲雄（特任助教）

研 究 分 野：建築計画、まちづくり、居住福祉

キーワード：ホームレス、生活困窮者、簡易宿所、あいりん地域

友渕貴之（特任助教）

研 究 分 野：建築意匠、地域計画、復興計画

キーワード：農山漁村、東日本大震災、エリアマネジメント、建築設計、リノベーション

【4】協定書関係

1. 地方創生に係る包括連携に関する協定書

地方創生に係る包括連携に関する協定書

和歌山県（以下「甲」という。）、大阪市立大学、大阪府立大学、摂南大学、和歌山工業高等専門学校、和歌山信愛女子短期大学及び和歌山大学（以下「乙」という。）並びに関西大学、近畿大学及び和歌山県立医科大学（以下「丙」という。）は、和歌山県における地方創生の実現のため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　本協定は、雇用創出・若者定着に係る事業を推進することにより、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展を実現することを目的とする。

（連携・協力事項）

第２条　甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携・協力して取り組み、丙はその取組の一部に協力するものとする。

（１）地域を担う人材育成に関すること

（２）学生の県内定着率の向上に関すること

（３）地域の雇用創出に関すること

（４）その他、地方創生の実現に関すること

２　甲及び乙は、前項に定める取組にあたって、協定締結の日から平成３２年３月３１日までの目標を、次のとおり定める。

（１）和歌山県内に就職する学卒者の割合を、１０％以上増加させること

（２）和歌山県内において、（１）の１０％にあたる雇用を創出すること

（連携・協力の組織）

第３条　甲、乙及び丙は、連携・協力を推進するため、金融機関や経済団体等関係機関を含めた協議会を設置する。

（情報の管理）

第４条　甲、乙及び丙は、連携・協力を通じて知り得た情報について、当該情報に関係する者の同意を得ることなしに、無断で第三者に公表してはならない。

（有効期間）

第５条　本協定の有効期間は、本協定締結の日から平成３２年３月３１日までとする。

ただし、本協定の有効期間の満了する１ヶ月前までに甲、乙及び丙のいずれからも文書による解消の申し出がない場合は、その有効期間を１年間延長するものとし、以後も同様とする。

２　前項の規定に関わらず、甲、乙及び丙のいずれかから協定の解消の申し出がなされ、甲、乙及び丙が協議して、文書による合意が成立したときに本協定は終了するものとする。

（その他）

第６条　本協定に定めのない事項又は本協定の解釈に疑義が生じたときは、甲、乙及び丙は、誠意をもって協議しその解決に努めるものとする。

本協定の締結を証するため、甲、乙及び丙は本協定書を１０通作成し、それぞれ記名押印の上、その１通を保有する。

平成２８年３月１５日

2. 田辺市

田辺市と国立大学法人和歌山大学との連携協力に関する包括協定書

田辺市（以下「甲」という。）と国立大学法人和歌山大学（以下「乙」という。）は、次のとおり包括連携協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、甲と乙が互いに緊密な連携のもと、活力ある個性豊かな地域社会の発展と学術の振興に貢献することを目的とする。

（連携協力事項）

第２条　甲と乙は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携し、協力するものとする。

（１）地域づくり・まちづくりの推進に関すること。

（２）地域経済の発展に関すること。

（３）教育・文化の振興及び人材の育成に関すること。

（４）その他、甲及び乙が有する知的資源、人的資源、物的資源の活用並びに相互に連携協力することが必要と認められる事項に関すること。

（連携調整窓口）

第３条　前条の規定による連携協力を円滑かつ効率的に進めるために、甲と乙は互いに窓口を設置し、必要な連携調整を行う。

（有効期間）

第４条　この協定の有効期間は、協定締結の日から１年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の３０日前までに、甲又は乙から申出のないときは、さらに１年間更新するものとし、その後も同様とする。

（その他）

第５条　この協定に定めのない事項及びこの協定に関して疑義が生じた事項については、甲と乙が協議して定めるものとする。

この協定の証として本協定書を２通作成し、甲乙それぞれ記名押印の上、各１通を保有するものとする。

平成２８年６月１日

田　辺　市　長　　国立大学法人和歌山大学長

3. 紀美野町

紀美野町・和歌山大学地域連携推進協定書

紀美野町と和歌山大学は、緊密な連携・協力関係を構築することに合意し、更なる相互の発展のため、産業・経済・教育・文化・行政等総括的な分野での地域の振興と活性化に貢献できるよう、今後、両者が常に互恵の精神をもって連携を推進するものとしてここに協定する。

なお、この協定は、平成２８年５月２３日から施行するものとし、その証として、本書２通を作成し、両者が署名押印のうえ、各自１通を保有する。

平成２８年５月２３日

紀美野町長　寺本光嘉

和歌山大学長　瀧寛和

4. 大阪府立大学

大阪府立大学と和歌山大学との包括連携に関する協定書

（目的）

第１条　大阪府立大学と和歌山大学は、大学が行う教育・研究活動全般における交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の一層の進展と地域社会及び国際社会の発展に資することを目的として、本包括連携協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（連携項目）

第２条　本協定による主な連携項目は、次のとおりとする。

（１）学生の教育・研究及び学生が行う諸活動に対する支援に関すること。

（２）学術研究に関すること。

（３）地域貢献に関すること。

（４）国内外の機関等との連携に関すること。

（５）その他両大学が必要と認めること。

（協議会の設置）

第３条　前条に掲げる項目に関する取り組みについて協議するため、協議会を設置する。

（事業の実施）

第４条　本協定に基づく具体的な事業の策定及び実施等については、その都度両大学が、覚書により合意するものとする。

（協定期間）

第５条　本協定の期間は、５年とする。ただし、期間満了の６ヶ月前までに、両大学のいずれからも協定の終了又は見直し等の申出がないときは、本協定は、さらに５年間更新されるものとし、以後も同様の取扱いとする。

（実施期日）

第６条　本協定は、締結日から効力を有する。

（雑則）

第７条　本協定に定めのない事項又は本協定の実施に関し必要な事項は、両大学で協議の上定めるものとする。

本協定締結の証として、本書２通を作成し、双方各１通を保有する。

平成２９年１月２４日

大阪府立大学長　　和歌山大学長

辻　洋　　滝　寛和

5. 大正大学

和歌山大学と大正大学との包括的連携に関する協定書

（目的）

第１条　本協定は、和歌山大学と大正大学が包括的な連携のもと、教育、研究、地域貢献等の分野において広く連携を図り、地方創生に資する人材育成と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（連携・協力）

第２条　和歌山大学と大正大学は、次の事項について連携・協力する。

（１）地域を志向する教育・研究の推進に関すること。

（２）学生及び職員の交流に関すること。

（３）地域の活性化、振興に関すること。

（４）その他前条の目的に資すること。

（協議）

第３条　本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者協議のうえ定めるものとする。

（有効期間）

第４条　本協定の有効期間は、協定締結の日から平成３２年３月３１日までとする。ただし、この間の連携・協力実績の評価を行い、両大学の合意により更新することができる。

２　この協定に定める事項について疑義が生じたとき又はこの協定に定めのない事項について必要があるときは、両大学が協議して定めるものとする。

本協定締結の証として本書２通を作成し、両者記名押印のうえ各自１通を保有する。

平成２６年６月１４日

和歌山大学長　　大正大学長

3. 教育プログラム開発

【1】めざす人材像

■教育目的

“わかやま未来学副専攻”では、「和歌山県まち・ひと・しごとにおける地方創生総合戦略」が掲げる基本目標に対応した 4 つの教育テーマに沿って自主的・実践的な教育を展開することにより、本県の地域社会が抱える多様かつ複合的な問題の解決に主体的に取り組み、わかやまの未来を切り拓く意欲を持った人材を育成します。地場産業、農林水産業、観光等のサービス業をはじめ教育、福祉、医療等、地域社会で幅広く活躍する活躍できる人材を育てます。

■副専攻が育成する人物像

わかやまに愛着を持ち、わかやまの未来を切り拓く意欲と能力を持った人材

■キーワード

コミュニケーション力、知力、体力、精神力、行動力

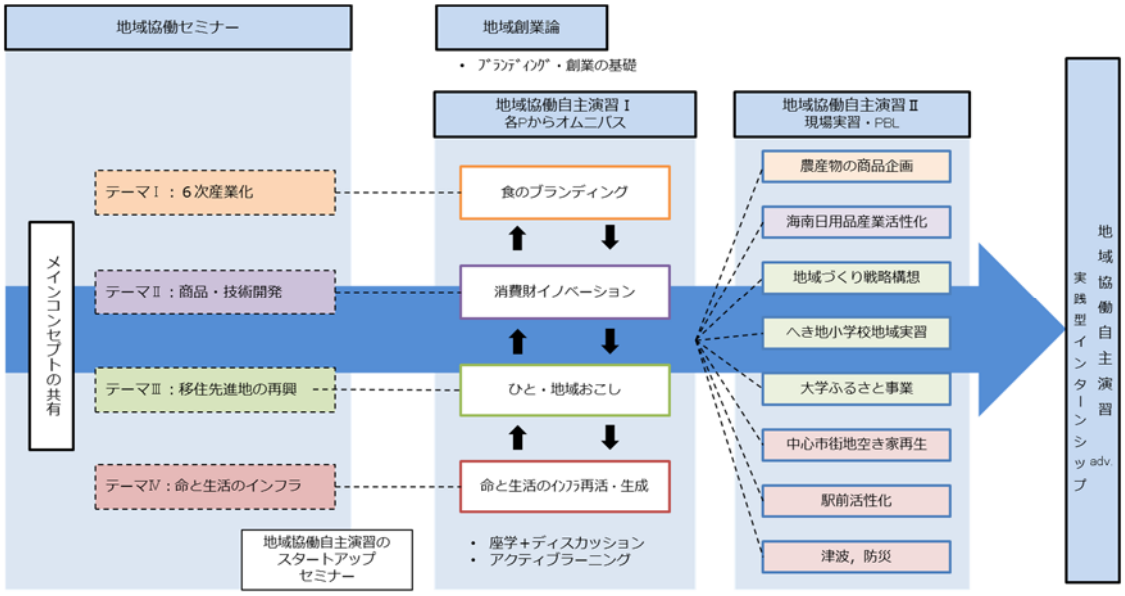
主体性、実行力、課題発見（解決）力、想像力、発信力

■習得すべき能力（わかやま未来学副専攻で育成する知識・能力）

地域が抱える課題を発見し、分析し、地域と協力しながら活動し、その経過を発信し、課題を解決できる能力

知識・マインド面
1. 知識とマインド
和歌山県の地域社会が抱える多様かつ複合的な問題を知り、その解決に向けて主体的に活動するマインドを持ち、実際に行動できる
能力・スキル面
2. プロジェクト・チーム運営スキル
地域社会を俯瞰し主体的に考え、判断すると同時に、個別の力を全体の力に転換していくプロジェクト運営・チーム運営ができる
3. 企画立案・マーケティングスキル
地域社会や内外の情勢に関わる情報を収集分析し、基礎的なマーケティングのスキルを活用して、イベントや事業の企画立案を行う事ができる
4. 合意形成・ファシリテーションスキル
様々な主体のニーズや考えを把握し、それぞれがより納得度の高い結論にいたる合意形成にいたるよう適切なファシリテーションを行うことで、ネットワークをさらに強化することができる
5. 情報発信・プレゼンテーションスキル
様々な情報を的確なターゲットに向けて、地域の魅力も含めて魅力的な形でわかりやすく発信することおよび、事業やイベントなどの趣旨を関係者に効果的に表現しプレゼンテーションできる

【2】副専攻プログラム構成



1. 地域協働セミナー（「わかやま学」群）

【受講人数】270 名（内訳以下参照）

	人数	割合
教育学部	14	5.2%
経済学部	65	24.1%
システム工学部	127	47.0%
観光学部	64	23.7%
計	270	100.0%

	人数	割合
1年	234	86.7%
2年	20	7.4%
3年	5	1.9%
4年	11	4.1%
計	270	100.0%

【授業内容】

実施日	テーマ	講師（実務家教員・敬称略）
2016 年 10 月 5 日	オリエンテーション	
2016 年 10 月 12 日	地方創生と和歌山県の課題、各テーマの導入	今井善人 （和歌山県 企画総務課　課長補佐）
2016 年 10 月 19 日	まちなか公共空間を再生する－公民連携のまちづくり	前寿広 （和歌山市 都市再生課　課長）
2016 年 10 月 26 日	まちなかで暮らしをつくる－空き家対策と活用に向けた新たな試み	南順子 （一般社団法人 ミチル空間プロジェクト理事長）

実施日	テーマ	講師（実務家教員・敬称略）
2016 年 11 月 2 日	中心市街地を再生するーリノベーションによるまちづくり	吉川誠人 （株式会社 紀州まちづくり舎）
2016 年 11 月 9 日	農で地域をつなぐー秋津野ガルテンの挑戦	木村則夫 （農業法人株式会社秋津野 専務取締役）
2016 年 11 月 16 日	農の可能性を拓くー和歌山県の農林水産業と 6 次産業化	鎌塚拓夫 （和歌山県　農林水産部長）
2016 年 11 月 30 日	わかやまで暮らすー「田舎暮らし応援県わかやま」と地域医療	児玉征也（和歌山県企画部地域振興局長） 上野雅巳（和歌山県地域医療支援センター長）
2016 年 12 月 7 日	中間振り返り	
2016 年 12 月 14 日	6 次産業化をプロデュースするー地域食ブランディング	新古祐子（スターフードジャパン株式会社代表取締役）
2016 年 12 月 21 日	家庭用品をプロデュースするー産業の概略ー	西坂公雄 （海南特産家庭用品協同組合　事務局長）
2017 年 1 月 11 日	家庭用品をプロデュースするー家庭用品産業とその振興ー	山家友希 （海南市　産業振興課商工観光係長）
2017 年 1 月 18 日	学校と地域を考えるー中山間地の教育現場と若者の役割	豊田充崇 （和歌山大学教職大学院　教授）
2017 年 1 月 25 日	和歌山で起業するー創業事例と支援の取組	北野暢哉 （紀陽銀行 地域振興部　地域活性化室長）
2017 年 2 月 1 日	全体の振り返り	

10 月 12 日：地方創生と和歌山県の課題

【講師：今井善人氏（和歌山県企画総務課課長補佐）】

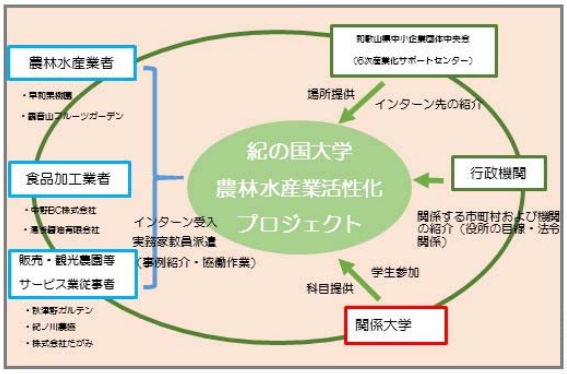
※グループワークの内容（あなたが和歌山県知事になったら？）

会場の様子（1）　　会場の様子（2）

2. 6 つのプロジェクト

番号	フィールド	プロジェクト名称	担当教員	教育活動の概要
1	紀の川市、田辺市、有田市　等	6次産業化実践	木村亮介	和歌山県の農業は、経営耕地の約6割が樹園地を中心とした果実の生産を行っている商業的農業特性が強い日本でも数少ない地域である。この特色を生かし、農業者による生産・加工・販売の一体化や、農業と第2次産業・第3次産業の融合等 により、新たな付加価値を地域内で創出することを目的とした6次産業化が推進されている。現場での実践型インターンシップ等を通じて、商品・サービスの開発およびその過程でPDCAを回しデータの収集や分析、商品の改良などができる人材を目指す。
2	海南市・紀美野町	家庭用品 イノベーション	藤田和史	和歌山県の特色ある地場産業である家庭用品産業について、プロセス・プロダクト両面のイノベーションを促進できる人材を、実務家教員からの課題提示による机上での演習、実際の企業の現場におけるインターンシップなどを通じて育成する。一部科目については、実践的な内容として現職の起業家・社員の再教育にも利用できるものとする。
3	県内市町村 （連携：和歌山県）	地域づくり戦略構想	大浦由美	和歌山県は、温暖な気候に恵まれ古くから移住が盛んな先進地でした。その和歌山の魅力向上に資する県内農山漁村の地域資源を活かした「新たな価値創造活動」に貢献する人材を、実務家教員の現場感覚を活かした講義と実践、地域での実践型インターンシップ等を通じて育成する。
4	南紀地域	自立・地域共生推進 （地域で仕事を創って生きていく）	西川一弘	和歌山県南部（南紀熊野地域）は半島であるがゆえの諸課題とともに豊かな自然資源も有している。この諸課題を多角的視点でとらえ直し、豊かな自然資源を活用できる自立的な能力を持った人材を育成する。 多角的視点のとらえ直しは「当たり前の風景から価値を生み出すこと」、すなわち、地域の再発見と人的ネットワークの積み上げプロセスが小さい仕事を生み出すことにつながる。 今回のコースでの焦点化する諸課題は「若者流出」「新しい仕事づくり」であり、それに対応するカリキュラムキーワードは「南紀熊野ジオパーク」「小商い・ナリワイ」である。
5	九度山町	地域資源を生かした生業づくりとまちづくり	宮川智子	九度山町は高野山へと連なる山並みと紀ノ川や丹生川による水資源に恵まれた環境に位置し、地域の人々により維持管理が行われる歴史的民家や地域資源が多く見られる。九度山町をフィールドとして自然および歴史環境と親しみながら、地域での暮らしと生活環境および地域資源を生かしたまちづくりについて考える機会となり、インターンシップ等を通して、地域の特性を生かした生業づくりやまちづくりについて考え実践できる人材を育成することが主な目的である。
6	和歌山市	地方都市のまちなか再生	永瀬節治	平野の少ない和歌山県では、もともと沿岸河口部にコンパクトな市街地が形成され、紀伊半島の経済・文化を支えてきたが、全国の地方都市と同様、モータリゼーションの進展とともに居住環境が郊外化し、中心市街地（まちなか）の空間・社会の空洞化が進んでいる。本プロジェクトでは、時代のニーズと地方都市の可能性を捉え、地域に潜在する空間・コミュニティ・生業・歴史文化等のストックを統合的に活かしながら、魅力と持続力のあるまちなかの再生に実践的に取り組める人材を育成する。

6次産業化の実践による農林水業活性化



◆プロジェクトの趣旨

和歌山県の農業は、果実生産を主とした商業的農業が強い日本でも数少ない地域である。この特色を生かし、農業者による生産 加工 販売の一体化や、農業と第2次産業 第3次産業の融合等 により、新たな付加価値を地域内で創出することを目的とした6次産業化が推進されている。現場での実践型インターンシップ等を通じて、商品 サービスの開発およびその過程でのPDCAを回しデータの収集や分析、商品の改良などができる人材を目指す。

◆育成するスキル・マインド

主体的に地域とかかわることができる

第一次産業（農林水産業）に興味がある

地域の現状に客観的な視点から向き合い課題を発見できる人材

地域資源を活用した商品 サービス 流通等の開発ができる人材

6 次産業化の実践による農林水産業活性化プロジェクト

【学 校 名】和歌山大学
【活動地域】紀の川市
【担当教員】木村亮介
（協働教育センター講師）
【COC＋推進室】大坪史人・友渕貴之
【協 働 先】農業生産法人有限会社柑香園
摂南大学

1. 事業概要・目的

和歌山県は、果実生産が盛んな日本でも有数のフルーツ大国である。この特色を生かし、農業者による生産・加工・販売の一体化や、農業と第 2 次産業・第 3 次産業の融合等により、新たな付加価値を地域内で創出することを目的とした 6 次産業化が推進されている。現場での実践型インターンシップ等を通じて、商品・サービスの開発およびその過程での PDCA を回しデータの収集や分析、商品の改良などができる人材を目指す。

2. 取り組み内容

本年度は、地域協働セミナー（1 年次後期開講）を通じ、関連する講義が 3 回と現場実習の導入としてスタートアップセミナーを実施した。実務家教員による講義では、和歌山県の農業の特徴や地域課題解決のため地域が一体となった農業のあり方、6 次産業化をプロデュースする過程などを学びました。

現場実習では、加工場で柿のドライフルーツを生産する様子、選果場ではかんきつ類の出荷と選別の様子を見学しました。最後に生産圃場でみかんの収穫体験をし、食味調査を行い普段スーパーマーケットで売られているみかんとの比較をし、感想を伝えました。

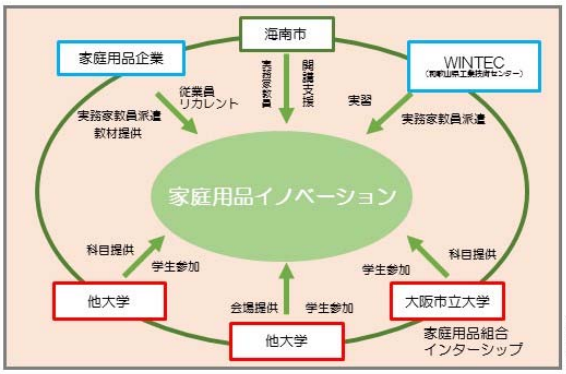
3. 課題と今後の展開

次年度は、「6 次産業化に取り組む企業の柑橘類を使った商品マーケティング企画」についてグループワークを行い現状分析・課題検討・提案していきます。その後、6 次産業化を実践している現場にインターンシップを行い、受け入れ先で検討されている商品・サービス・イベント開発のサポートをすることで、農産物の生産から管理、収穫そして商品化されていくまでの流れを学びます。

4. 学生/地域の声

普段は、実習を行うことが少ないためいい経験になった。特に、出荷間近のみかんは普段食べているものと味の濃さがまったく違い驚いた。こういった農家さんの想いや努力を伝えていくことも付加価値をつける方法だと思った。

家庭用品イノベーション



◆プロジェクトの趣旨

和歌山県の特色ある地場産業である家庭用品産業について、プロセス プロダクト画面のイノベーションを促進できる人材を、実務家教員からの課題提示による机上での演習、実際の企業の現場におけるインターンシップ等を通じて育成する。一部科目については、実践的な内容として、原色の起業家 社員の再教育、再定着人材教育にも利用できるものとする。

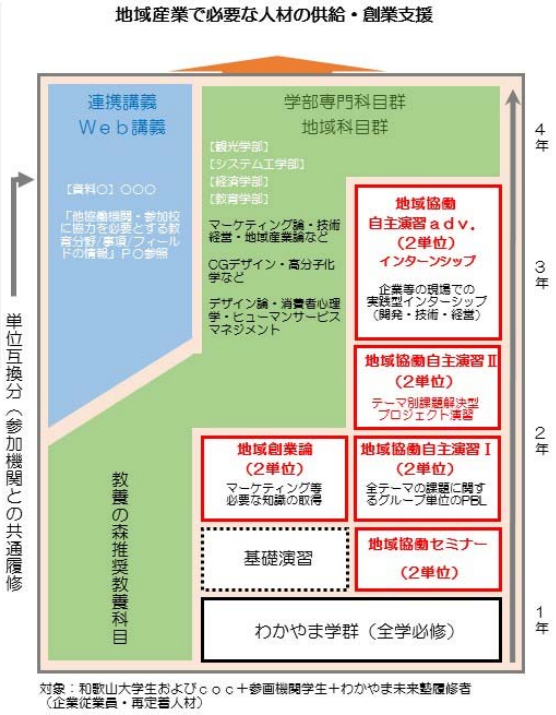
◆育成するスキル・マインド

①経営 技術 歴史 産業政策等の科目構成による教養ある基礎力養成

②企業経営者等実務家教員からの素材提供。協働による応用力養成

③実践型インターシップを通じた企業の現場での即戦力養成

④資源活用のための具体策を提示できる。



対象：和歌山大学生およびｃｏｃ＋参画機関学生＋わかやま未来塾履修者
（企業従業員・再定着人材）

家庭用品イノベーションプロジェクト

【学 校 名】和歌山大学
【活動地域】海南市
【担当教員】藤田和史（経済学部准教授）
【COC＋推進室】冨永哲雄・大坪史人
【協 働 先】大阪市立大学、海南市、海南特産家庭用品協同組合、高田耕造商店

1. 事業概要・目的

海南市を中心とする野上谷は、かつて地域資源の一つであるシュロの産地として賑わいました。シュロの活用の一つとして、タワシの生産、さらにそれから発展した家庭用品の生産が盛んになりました。現在、家庭用品産業は、和歌山県の特色ある地場産業となっています。このプロジェクトでは家庭用品産業について学ぶことを通じて、地場産業の振興をプロセス・プロダクト両面のイノベーションから促進できる人材を育成することが目標です。また, 産業振興に政策から携わる人材（行政職員・団体職員）も育成します。

2. 取り組み内容

本年度は、地域協働セミナー（1 年次後期開講）を通じ、関連する講義が 2 回と現場実習の導入としてスタートアップセミナーを実施しました。このスタートアップセミナーは、大阪市立大学と共同で実施しており、家庭用品生産工場（海南市）と都市部の消費財地（堺市）を見学しました（参加者総数 16 名）。現場実習では、海南市において、シュロの加工を行う工場でタワシを生産する様子、堺市では、「堺刃物ミュージアム」を見学し、理解を深めました。

実務家教員による講義では、「家庭用品をプロデュースする」と題し、海南市が家庭日用品企業が集積するに至った歴史的背景、家庭日用品企業が抱える課題とともに、行政としての支援のあり方などをを学びました。

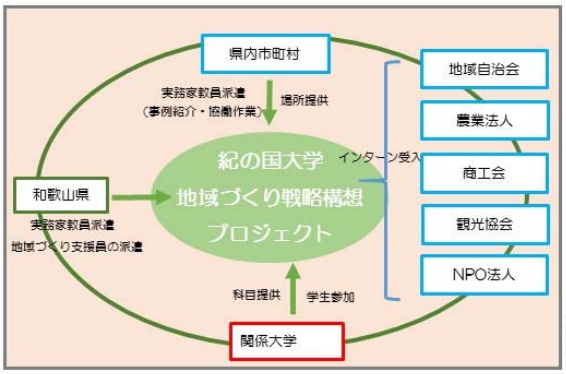
3. 課題と今後の展開

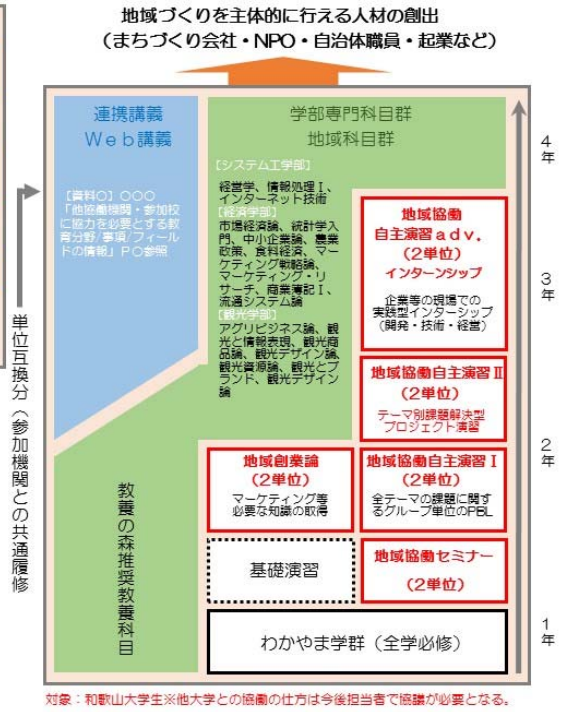
次年度は、「家庭日用品の現在・過去・未来を探ろう」についてグループワークを行い現状分析・課題検討・提案していきます。その後、家庭日用品の関連企業にインターンシップを行い、実践的な商品技術開発のノウハウの一端を学びます。

4. 学生/地域の声

普段は出来ないような体験をすることが出来ました。授業内で教わったこをを実際に見ることができ、とてもよかったです。このセミナーをきっかけに他の地域についても知ろうと思いました。

地域づくり戦略構想





◆プロジェクトの趣旨

移住先進県としての和歌山の魅力向上に資する県内農山漁村の地域資源を活かした「新たな価値創造活動」に貢献する人材を、実務家教員の現場感覚を活かした講義と実践、地域での実践型インターンシップ等を通じて育成する。

◆育成するスキル・マインド

主体的に地域と関わることができる

農山漁村に愛着がある

地域の現状に客観的な視点から向き合い課題を発見できる人材

地域資源を活用した課題解決手法を実践できる人材

地域づくり戦略構想プロジェクト

【学 校 名】和歌山大学
【活動地域】紀の川市、田辺市、上富田町
【担当教員】大浦由美（観光学部教授）
【COC＋推進室】大坪史人・友渕貴之
【協 働 先】和歌山県立医科大学、
和歌山県、紀の川市、田辺市、
上富田町、JA 紀の里

1. 事業概要・目的

和歌山県は、温暖な気候に恵まれ古くから移住が盛んな先進地でした。その和歌山の魅力向上に資する県内農山漁村の地域資源を活かした「新たな価値創造活動」に貢献する人材を、実務家教員の現場感覚を活かした講義と実践、地域での実践型インターンシップ等を通じて育成する。

2. 取り組み内容

本年度は、地域協働セミナー（1 年次後期開講）を通じ、関連する講義が 3 回と観光学部の 2 年生を対象に和歌山県が主催する「水土里のむら機能再生支援事業」に参画しました。また、和歌山県が大阪市で行った「和歌山丸ごと田舎体験紹介フェア」、JA 紀の里が運営する農産物直売所「めっけもん広場」の見学を行いました。

実務家教員による講義では、地域づくりの現状や課題を学び、和歌山県立医科大学の上野教授からは、地域医療のあり方について講義を受けました。

和歌山丸ごと田舎体験紹介フェアでは、観光学部の LIP（Local Internship Program）に参加した学生が広川町の応援に駆けつけ、一緒になって和歌山県を PR しました。

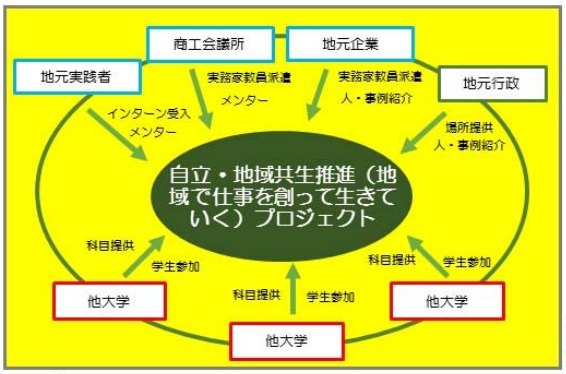
3. 課題と今後の展開

次年度は、県下の集落での地域づくりワークショップに参加し、地域づくり戦略構想策定支援を通じて、地域の課題抽出、分析手法、ファシリテート能力の基礎を習得します。地域づくりワークショップの結果から、地域の現状に即したビジネスプラン等を地域の人と一緒に考えます。

4. 学生/地域の声

JA 紀の里のめっけもん広場を見学した学生からは、和歌山県内に住んでいて有名な直売所だとは、知っていたけど来るのは初めてだった。様々な野菜が安い値段で売られていてびっくりしたし、とても新鮮そうでした。

自立・地域共生推進（地域で仕事を創って生きていく）



◆プロジェクトの趣旨

和歌山県南部（南紀熊野地域）は半島であるがゆえの諸課題とともに豊かな自然資源も有している。この諸課題を多角的視点でとらえ直し、豊かな自然資源を活用できる自立的な能力を持った人材を育成する。多角的視点のとらえ直しとは「当たり前の風景から価値を生み出すこと」、すなわち、地域の再発見と人的ネットワークの積み上げプロセスそのものである。地域で必要な小さな仕事は、このプロセスの蓄積の結果、生み出すことにつながると考える。今回のプロジェクトでの焦点化する諸課題は「若者流出」「新しい仕事づくり」であり、それに対応するカリキュラムキーワードは「南紀熊野ジオパーク」「小商い ナリワイ」である。

◆育成するスキル・マインド

①物事を多角的に分析できる　②地域の中に役割を見つけることができる
③生活を自給する視点を持つことができる
④諸課題からナリワイをつくりだすことができる
⑤身の回りの助けを得るようになれる　⑥ピンチをチャンスにすることができる

自立・共生能力（市民性）を持った人材の創出
（自営業＆事業承継・着地型観光業・見習地域おこし協力隊など）

対象：和歌山大学生※他大学との協働の仕方は今後担当者で協議が必要となる。

自立・地域共生推進プロジェクト

【学 校 名】和歌山大学
【担当教員】西川一弘（地域連携・生涯学習センター講師）
【COC＋推進室】田代優秋
【協 働 先】bookcafe kuju　店主　柴田 哲弥氏、NPO 法人共育学舎　代表　三枝 孝之氏、新宮市議会議員　並河　哲次氏

1.　事業概要・目的

和歌山県南部（南紀熊野地域）は半島であるがゆえの諸課題（進学に伴う若年層の流出、仕事を求めての県外流出など）とともに豊かな自然資源も有しています。このプロジェクトでは、こうした諸課題を多角的視点で捉え直し、豊かな自然資源を活用できる自立的な能力を持った人材を育成することを目的としています。この捉え直しは「当たり前の風景から価値を生み出すこと」、すなわち、地域の再発見と人的ネットワークの積み上げプロセスが小さい仕事を生み出すことにつながると考えています。

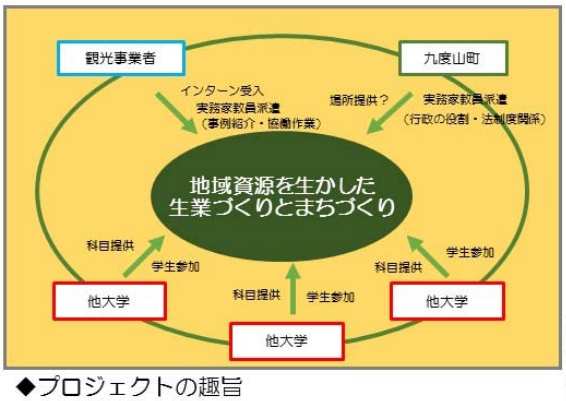
2.　取り組み内容

本年度は、地域協働セミナー（1 年次後期開講）を通じ、関連する講義が 3 回と現場実習の導入としてスタートアップセミナーを実施した。まず何よりも、紀南地域を知ることが大切ということで、地に赴き、地域の方と本音で語る場を設けました。具体的には、廃校舎をリノベーションしたブックカフェの店主、若者の自立支援活動を行う NPO 法人、そうした活動を政治を通じて応援する移住者で市議会議員、コーヒースタンドを開業しようとする 20 歳の若者と夜通しじっくり話をしました。

3.　課題と今後の展開

参加学生にとっては同世代の若者が田舎で自分の能力で「起業（生きていこう）」する様子はとても刺激的でした。これまでの講義等では、成功した人の話を後日談や失敗談として聞くことが多く「教訓」のように聞こえ勝ち。同世代で、今まさに起業しようとする若者を、今の自分と重ねたり、自分ならば何ができるか考える「等身大の先生」となっていました。特に、新規創業にあたり「焦り」「不安」などで眠れないなど、ありのままを聞けることで疑似体験できるようでした。今後、こうした「等身大の先生」を増やし、色々な分野で起業する方の話を聞くことがよい教材になると思われます。

地域資源を生かした生業づくりとまちづくり



◆プロジェクトの趣旨

九度山町は高野山へと連なる山並みと紀ノ川や丹生川による水資源に恵まれた環境に位置し、地域の人々により維持管理が行われる歴史的民家や地域資源が多く見られる。九度山町をフィールドとして自然および歴史環境と親しみながら、地域での暮らしと生活環境および地域資源を生かしたまちづくりについて考える機会となり、インターンシップ等を通して、地域の特性を生かした生業づくりやまちづくりについて考え実践できる人材を育成することが主な目的である。

◆育成するスキル・マインド

地域の特性や課題をみつけ、解決策を提案することができる力

地域の特性や課題をみつけ、多様な関係者と連携できる力

地域資源を生かした生業づくりとまちづくりプロジェクト

【学 校 名】和歌山大学
【活動地域】九度山町
【担当教員】宮川智子
（システム工学部教授）
【COC＋推進室】冨永哲雄・大坪史人
【協 働 先】大阪府立大学、摂南大学
九度山町

1. 事業概要・目的

九度山町は、高野山へと連なる山並みと紀ノ川や丹生川による水資源に恵まれた環境に位置し、町内には、地域の人々により維持管理が行われる歴史的町並みや地域資源が多く見られます。九度山町をフィールドとして自然および歴史環境と親しみながら、地域での暮らしと生活環境および地域資源を生かしたまちづくりについて考える機会となり、インターンシップ等を通して、地域の特性を生かした生業づくりやまちづくりについて考え実践できる人材を育成することが本プロジェクトの主な目的です。

2. 取り組み内容

本年度は、地域協働セミナー（1 年次後期開講）を通じ、スタートアップセミナーとして、九度山町の歴史的建造物や町並み見学会を行った。九度山町に後援いただき、世界遺産の一部である宗教法人慈尊院や、地域の人々により維持管理が行われている歴史的民家をみてまわった。

3 大学の合同でまち歩きを、総勢 33 名の学生がすることで、九度山町でのまちづくりについて考える機会となった。

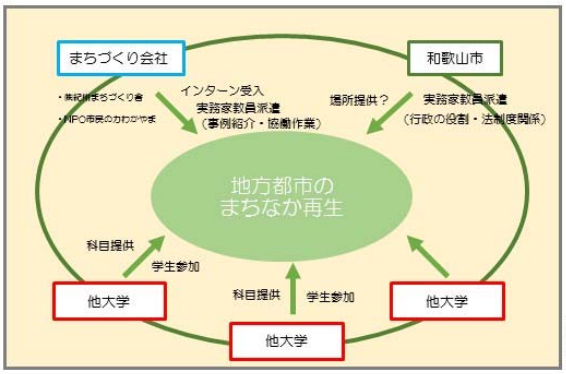
3. 課題と今後の展開

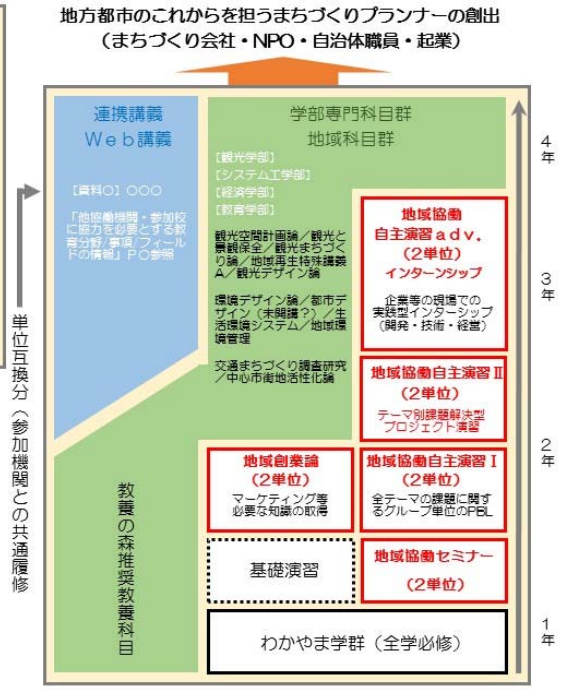
次年度は、九度山町での実践を通じて、ワークショップを 3 回行う予定である。具体的なテーマとしては、1）地域資源の発見と歴史的環境を学ぶ、2）観光ルートづくり、3）商売をはじめよう、を予定し、学びを深めていく。その後、行政、観光事業者、公共機関等へのインターンシップを予定している。

4. 学生/地域の声

慈尊院内の建物や塀、世界遺産の町石道や卒塔婆など、全ての建造物に歴史的・文化的価値が秘められており、観光資源として価値のある地域資源だということを知りました。さらに慈尊院の多宝塔は耐震設計を取り入れた解体修理を行っていることを知り、県の文化財として保全して行こうという取り組みが見受けられました。九度山町というエリア全てが、重要かつ十分な地域資源であると気づきました。

地方都市のまちなか再生





◆プロジェクトの趣旨

平野の少ない和歌山県では、もともと沿岸河口部にコンパクトな市街地が形成され、紀伊半島の経済 文化を支えてきたが、全国の地方都市と同様、モータリゼーションの進展とともに居住環境が郊外化し、中心市街地（まちなか）の空間 社会の空洞化が進んでいる。本コースでは、時代のニーズと地方都市の可能性を捉え、地域に潜在する空間 コミュニティ 生業 歴史 文化等のストックを統合的に活かしながら、魅力と持続力のあるまちなかの再生に実践的に取り組める人材を育成する。

◆育成するスキル・マインド

①地域の課題と潜在的資源を客観的に抽出できる。

②地域の多様な主体との連携 協働ができる。

③地域の空間と社会を統合した将来ビジョンを提示できる。

④資源活用のための具体策を提示できる。

地方都市のまちなか再生プロジェクト

【学 校 名】和歌山大学
【活動地域】和歌山市
【担当教員】永瀬節治（観光学部/准教授）
【COC＋推進室】友渕貴之・冨永哲雄
【協 働 先】和歌山市、大阪市立大学
　　摂南大学

1. 事業概要・目的

平野の少ない和歌山県では、もともと沿岸河口部にコンパクトな市街地が形成され、紀伊半島の経済・文化を支えてきた。しかし、全国の地方都市と同様、モータリゼーションの進展とともに居住環境が郊外化し、中心市街地（まちなか）の空間・社会の空洞化が進んでいる。

本プロジェクトでは、時代のニーズと地方都市の可能性を捉え、地域に潜在する空間・コミュニティ・生業・歴史文化等のストックを統合的に活かしながら、魅力と持続力のあるまちなかの再生に実践的に取り組める人材を育成する。

2. 取り組み内容

本年度は、地域協働セミナー（主として 1 年次後期対象）を通じ、関連する講義が 3 回と現場実習の導入としてスタートアップセミナーを実施した。実務家教員による講義では、和歌山市を中心に空き家対策や中心市街地の再生などを学んだ。現場実習では、

3 大学合同で総勢 29 名が参加した。

和歌山市内のリノベーション物件 7 ヶ所をまわった。（コースは、水辺座→ミートビル→ハウスブルーネ→シェアキッチン PLUG→石窯ポポロ・almo→ゲストハウス RICO）各オーナーにお話を伺うことでそれまで有効活用されていなかった建物（遊休不動産）を活用し、建物とエリアの価値を向上させる取り組みを行っている事例に触れることが出来た。

3. 課題と今後の展開

次年度は、和歌山市におけるフィールドワークをとおして、地域資源した具体的な提案を行っていく予定である。①南海電鉄和歌山市駅まちづくりプロジェクト（和歌山市駅周辺）：まちづくりワークショップ、市駅前通り等での社会実験など。② ポポロハスマーケット等のまちなかイベント（ぶらくり丁周辺）への出店などを予定している。

4. 学生/地域の声

改装前の写真と実際の現場を見て、ちょっと手を加えるだけで空間がこんなに変わるというのが驚きだった。自分でもしてみたいと思った。

3. スタートアップセミナーの実施内容等

	プロジェクト名	担当教員	開催日程	実施場所	目的	活動概要	参加実績	
①	6次産業化実践	木村亮介(協働教育センター：講師)	11月5日（土）	紀の川市 （観音山フルーツガーデン訪問）	各大学間からの参加者間の交流を目的に紀の川市の観音山フルーツガーデンにおいて、生産現場や加工所等を見学し、農業生産の現場および6次産業化について学びます。	各班にわかれて現場体験を行います。 ①生産：柑橘類の収穫体験 ②集荷：選果場の見学 ③加工：加工所内の見学	和歌山大学（地域協働セミナー受講生）	学生24名（教職員2名）
							摂南大学	学生2名（教職員1名）
②	家庭用品イノベーション	藤田 和史（経済学部：准教授）	2月18日（土）	海南市・堺市・大阪市内 （消費財生産企業訪問）	海南市での家庭用品生産の様子を見学しながら、産業そのものについて知見を深めます。また、大阪市大の学生さんと交流しながら、都市部の消費財産地（堺市・大阪市）も見学し、家庭用品を含めた消費財産業についても理解を深めます。	海南市・堺市・大阪市内の消費財生産企業を見学する 大阪市立大学の学生さんと交流も行う	和歌山大学（地域協働セミナー受講生）	学生4名（教職員2名）
							大阪市立大学	学生8名（教職員2名）
④	自立・地域共生推進	西川　一弘（地域連携・生涯学習センター：講師）	12月10日（土） 12月11日（日）	南紀熊野地域 （バスツアー）	「南紀熊野地域」でcafeを経営する若手と若者を受け入れ続けるベテランIターンを訪問し、じっくり語る時間を設けます。人生のライフヒストリーから、学びのきっかけを掴み取ります。また、南紀熊野という地域で何ができるのか、何を生み出せるのかを共に考えます。	10日（土）JR紀伊田辺駅に12時30分集合 ＜バスで移動…2カ所のインタビュー＞ 11日（日）12時30分JR紀伊田辺駅で解散	和歌山大学（地域協働セミナー受講生）	学生2名（教職員2名）
⑤	地域資源を生かした生業づくりとまちづくり	宮川 智子（システム工学部：教授）	11月23日（水・祝）	九度山町 （中心市街地）	九度山町をフィールドとして自然および歴史環境を生かしたまちづくりを考えるために、地域での暮らしと生活環境および地域資源について学びます。	世界遺産の町石道と慈尊院および道の駅を見学ののち、九度山の町並みと地域資源ツアーを行う	和歌山大学（地域協働セミナー受講生）	学生23名（教職員3名）
							大阪府立大学	教職員1名
							摂南大学	学生2名（教職員1名）
⑥	地方都市のまちなか再生	永瀬　節治(観光学部：准教授)	11月3日（木・祝）	和歌山市 （ぶらくり丁周辺市街地）	商業機能の衰退と地域コミュニティの空洞化が進む和歌山市中心部では、空き家・空き店舗等が増加している。そうした中で、古くなった建物を解体して建て替えや再開発を行うのではなく、有効活用されていない建物（遊休不動産）を活用し、内部や外観を刷新しながら新たな機能・業態を導入することで、建物とエリアの価値を向上させる「リノベーション」によるまちづくりが進められている。これらの事例に実地で触れることで、最新のまちなか再生手法への理解を深めます。	和歌山市内のリノベーション物件の見学会（リノベーションまちづくりツアー）を行う	和歌山大学（地域協働セミナー受講生）	学生18名（教職員3名）
							大阪市立大学	学生6名（教職員2名）
							摂南大学	学生6名（教職員2名）

4. 地域連携・創業支援

【1】インターンシップ拡充に向けた取り組み

■訪問リスト

No	面談日	行政、企業、関係機関名	業種	部署、部課等
1	2016年4月7日	御坊市役所	行政	総務部企画課、産業建設部農林水産課、産業建設部商工振興課
2	2016年4月7日	美浜町役場	行政	防災企画課、地方創生統括官
3	2016年4月12日	(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー	旅行企画	会長
4	2016年4月19日	紀ノ川農業協同組合	農業協同組合	本所
5	2016年4月19日	田辺市役所	行政	企画調整課
6	2016年4月20日	(株)八旗農園	食品加工販売	本社
7	2016年4月20日	(株)藤桃庵	食品加工販売	本社
8	2016年4月21日	西日本電信電話(株)	通信	和歌山支店ビジネス営業部
9	2016年4月21日	キクロン(株)	日用家庭用品製造販売	開発部、採用企画室、開発部、管理部システム企画グループ
10	2016年5月18日	(株)紀陽銀行	金融機関	地域振興部地域活性化室
11	2016年5月18日	有田市役所	行政	経営管理部理事、経営管理部経営企画課
12	2016年5月24日	(一社)和歌山県経営者協会	経済団体	事務局
13	2016年5月24日	(特)和歌山県中小企業団体中央会	経済団体	事務局、情報総務部
14	2016年5月25日	橋本市役所	行政	経済推進部はしもとブランド推進室
15	2016年6月1日	和歌山県6次産業化サポートセンター	行政	6次産業化サポートセンター
16	2016年6月2日	関西電力(株)和歌山支社	電力	和歌山総務グループ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ統括グループ
17	2016年6月5日	匠技研(株)	機械製造販売	代表取締役
18	2016年6月5日	アクロナイネン(株)	機械製造販売	管理部、管理部総務課
19	2016年6月5日	(一財)雑賀技術研究所	経済団体	理事、管理部総務課
20	2016年6月5日	(株)島精機製作所	機械製造販売	総務人事部人事グループ
21	2016年6月5日	和歌山県庁	行政	労働政策課、企業政策局企業立地課、危機管理・消防課
22	2016年6月9日	(株)エムアファブリー	芳香剤製造販売	代表取締役
23	2016年6月14日	ワコー(株)	家庭日用品製造販売	総務・経理部
24	2016年6月14日	平和酒造(株)	酒類製造	代表取締役専務
25	2016年6月14日	和歌山石油精製(株)	石油精製	取締役総務部長
26	2016年7月11日	和歌山県庁	行政	企業政策局企業立地課
27	2016年7月12日	(株)日本政策金融公庫	金融機関	和歌山支店、田辺支店、大阪創業支援センター
28	2016年7月14日	阪和電子工業(株)	電子精密機器製造	総務部
29	2016年7月15日	(株)エルオー	家庭日用品製造販売	常務取締役
30	2016年9月5日	海南市役所	行政	まちづくり部産業振興課
31	2016年9月8日	(株)オプラスロジス	物流	
32	2016年9月9日	(株)農業総合研究所	農家直売事業	本社
33	2016年9月20日	三和建設(株)	建設	営業グループ
34	2016年9月21日	かきぶち農園、	食品加工販売	
35	2016年9月21日	(株)南高梅ワールド	食品加工販売	
36	2016年9月21日	紀伊路屋	食品加工販売	
37	2016年9月21日	長谷農園	食品加工販売	
38	2016年9月26日	学校法人　田原学園	教育	
39	2016年10月6日	かんじゃ山椒園	食品加工販売	
40	2016年10月6日	(株)ふみこ農園	食品加工販売	
41	2016年10月10日	農業生産法人(有)柑香園	食品加工販売	
42	2016年10月14日	(社)カピオンエデュケーション・(株)カピオン	創業コンサル、企画	本社
43	2016年10月20日	太洋工業(株)	電子精密機器製造	研究開発部、電子工場、総務部
44	2016年12月9日	スターフードジャパン(株)	地域食企画・販売	代表取締役
45	2016年12月9日	和歌山商工会議所	経済団体	和歌山県事業引き継ぎ支援センター
46	2016年12月14日	(株)タカショー	エクステリア用品製造販売	総務部

地域連携・創業支援部会開催に向けた懇談会

【実施日】平成 29 年 2 月 2 日
【会　場】ホテルグランヴィア 6F 桜の間
【出席者】和歌山県労働政策課　下村 修、産業技術政策課　栩野 彰大、企業振興課 西浦 頼子、文化学術課　阪中 潤、紀陽銀行地域活性化室　北野 暢哉、土屋 佳子、和歌山県経営者協会　川口 芳男、和田 好史、津田 健、和歌山県中小企業団体中央会　中井 祥之、松井 知弘、和歌山大学　鯵坂 恒夫、金子 泰純、木村 亮介、力久 浩治、三浦 琢磨、大家 京、大道 弘三、田代 優秋、児嶋 政則（計 20 名、順不同、敬称略）

1.　事業概要・目的

「就職・創業支援」に関する目標“地元就職率の 10%向上”と“雇用創出 10 件（新規創業以外にも、事業承継、第二創業も想定）”は、地域連携・創業支援部会で検討し、目標達成に向けて取組を進めています。この部会の開催に先立ち、事業協働実施機関全体で現状の課題の共通認識を図りながら、それらを解決する「具体的で実効性のある取組」を共有する機会として実務担当者らの懇談会を設けました。

2.　就職率向上に向けた具体的な取り組みについて

・すでにある「学生が企業を知る機会」から課題点の抽出、具体的な改善策

「学生は（県内外を問わず）企業を知らない」という共通認識が図られ、これまで講じられた「知る機会」を整理し、「自ら企業を知ろうという学生」と「まだ積極的に知ろうと行動していない学生」の両面からアプローチできる方法を模索します。

・U ターン学生への就職支援（「わかやま未来塾」とも連携）

高卒後に県外へ進学した学生に対して、和歌山県内での就職を促す取組を大阪市立大、大阪府立大などの紀の国大学参加校と連携し進めます。

3.　創業支援に向けた具体的な取り組みについて

・学生ベンチャーの定義の拡張と把握・支援策

在学中の起業、卒業後の起業、既卒者の U ターン起業など様々な「創業形態」があり、特に把握が困難な「卒業後の起業」を把握する方法（制度）を考えていくことが必要との意見があがりました。

・創業の特定分野戦略と挑戦の機会創出

「起業」までには至らないものの「ビジネスへの挑戦」を考える学生が一定数いるので、具体的な起業分野（例えば、人工知能活用分野、古民家再生など）を設定して支援する方法と、学生のリスクを低く抑え「試しにやってみる（試業）」を支援する方法との両面からアプローチを模索します。

・起業を考える学生の相談窓口と学外支援者とをつなぐコーディネート機能

起業を考える学生自体を増やしていくために、学内での相談窓口と学外の創業支援とを橋渡しできるコーディネート機能を持った役割（部署）の必要性についても議論しました。（※）上記は意見として出されたもので、すべてが実施決定事項ではありません。

【2】インターンシップの取り組み実績

■和歌山県経営者協会を通じた和歌山県内企業・団体へのインターンシップ参加学生数

学校名	H25	H26	H27	H28	合計
和歌山大学	87	54	63	48	252
和歌山信愛女子短期大学	30	38	35	49	152
和歌山工業高等専門学校	71	46	57	56	230
大阪市立大学	3	1	3	4	11
大阪府立大学	2	1	1	3	7
摂南大学	0	0	1	1	2
合計	193	140	160	161	654

■実践型インターンシップ（和歌山大学）

№.	会社名	事業内容	実習テーマ
1	株式会社リゾート大島	コテージ宿泊、キャンプ場、レストラン、マリンレジャーガイド、トルコランプ作り	着地型観光の実際を学ぶ ～ニーズをつかみ、実践に移す～
2	紀ノ川農業協同組合	組合員の農産物の委託販売および生産資材等の購買事業	「地域づくりを伝えるECサイト商品開発と運営サポート」 紀の川吉野川流域連携、また自然エネルギーと環境保全型農業を関連させた商品開発
3	ワコン株式会社	物流と包装の開発型メーカー	日本の技術を世界へ伝える新商品の開発 （免振パッケージ）
4	ワコン株式会社	物流と包装の開発型メーカー	日本の技術を世界へ伝える新商品（クリーンルーム専用物流機器）のマーケティング・営業　実践
5	橋本市（経済推進部）	地方創生のため、地場産業の競争力強化、販路開拓・拡大促進、就農しやすい環境づくり、魅力のある農業振興、起業・創業支援、企業誘致の推進などに取組む。	『地方創生 ・ WORK TOGETHER！ 魅力ある農業振興のための調査研究』
6	和歌山県美浜町（防災企画課、商工会）	地方創生を中心施策とし、地場産業の競争力強化、販路開拓・拡大促進、魅力のある産業振興、創業支援などに取り組んでいます。	6次産業化で地域ブランドを確立し、美浜町の魅力づくりに貢献！
7	株式会社たがみ	米穀類小売業（米屋）	地域の食材をブランディングする 「熊野米」プロデュース！
8	株式会社たがみ （海の家　バルデガハマ）	田辺市扇ヶ浜における海の家の経営 BARDEGAHAMA（バルデガハマ） 本業：米穀類小売業（米屋）	南国ビーチで 海の家を経営する！
9	特定非営利活動法人 ジョイ・コム	障がい者就労支援継続事業A型 （発達障害・知的障害・精神障害）	[障害福祉現場] とことわ（wakayama*chocolat　toco*towa)就労支援サービスの提供と事業運営に関わる
10	株式会社ホテル大阪屋 （加太淡嶋温泉　大阪屋 ひいなの湯）	夕陽の眺めが美しい露天風呂と新鮮な魚料理が自慢の温泉旅館。	温泉旅館の経営改善プロジェクト
11	株式会社むさし （紀州・白浜温泉　むさし）	5つ星の宿認定・ウェルカムベビーの宿認定・日本夕陽の宿100選などに選ばれる上質な旅館	南紀白浜温泉 老舗旅館の未来を創る！

【3】創業支援ファンド設立に向けた取り組み

■和歌山大学のベンチャー起業実績

形態	企業名	設立年月日 年	月	日	主な製品、サービス
株式会社	株式会社あっと楽けあネットワーク	2003	12	12	介護関連の事業者を「楽けあネットワークシステム」で結ぶことによって事務作業を軽減するサービス
株式会社	株式会社BEE	2004	7	7	WEBサイトの企画・制作、WEBサイトリニューアル、WEB標準準拠サービス、FLASHコンテンツ制作、ビジネスブログ制作、CD/DVD制作
株式会社	NUシステム株式会社	2006	1	10	有害物質の光を使った計測装置の製造・販売
有限会社	有限会社アットフリークス	2005	9	21	ネット無料コンテンツ(wiki)配信サービス
株式会社	和創技研株式会社	2007	10	19	電子機器の開発及び製作
株式会社	パワーアシストインターナショナル株式会社	2015	3	11	パワーアシスト機器の開発、設計、製造、リース、レンタル、販売、保守管理

【4】和歌山の企業で働く魅力が分かる［企業×学生］交流会

5. 事業評価・FD

【1】事業評価・FD 委員会議事要旨

平成 28 年度　第 1 回紀の国大学協議会事業評価・FD 委員会　議事要旨

（第 2 回は 3 月 7 日開催）

日時：平成 28 年 6 月 7 日（火）　11：00～11：40

場所：和歌山大学基礎教育棟　G209 講義室

出席：大阪市立大学、大阪府立大学、摂南大学、和歌山工業高等専門学校、
和歌山信愛女子短期大学、和歌山大学、和歌山県、紀陽銀行、
和歌山県中小企業団体中央会

【議事】

（1）　平成 28 年度の紀の国大学協議会事業評価・FD 計画について

委員長および事務局より、平成 28 年度に紀の国大学が実施する事業評価及び FD 活動に関する計画内容について説明があり、審議の結果、承認した。

なお、委員から以下のとおり意見があった。

・わかやま未来学副専攻受講者に対して実施する授業評価アンケートについては、今後、学生の成長が確認できるように質問項目を検討願いたい。

また、平成 27 年度に適任者の確保が難しく採用することができなかったことにより、評価区分が Ⅱ（年度別実施計画を十分に実施していない。）となった取り組みについて、平成 28 年度に、当該各大学において事務補佐員の雇用が順次進められていることを確認した。

（2）その他

その他の議題はなかったため、閉会した。

【2】学生自主演習合同研修

1. 第 1 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修）

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」

第 1 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修）実施状況

日時：平成 28 年 7 月 8 日（金）　15：00～18：00

場所：和歌山大学基礎教育棟　G209 講義室

テーマ：「アクティブ・ラーニング」の考え方

目的：各分野の副専攻カリキュラム設計の見直し、地域協働セミナーにおける授業手法への応用など。

概要：アクティブ・ラーニングの概念的思考の枠組みと具体例についてのレクチャー。

それを踏まえて副専攻プログラムの見直し。

講師：株式会社知識創発研究所　代表取締役 CRO

東北学院大学 地域協働教育推進機構 特任教授　松崎光弘氏

参加者：5 機関　8 名（参加校教員、実務家教員）及び本学教職員　25 名

【案内要項及び実施風景】

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

第１回 COC＋合同 FD 研修会

（学生自主演習合同研修）

COC＋参加校及び実務家教員を対象に、和歌山大学協働教育センター教員を中心に学生自主演習で培ってきたノウハウを共有します。

副専攻プログラムを実施するために必要なアクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ等に必要な考え方・ノウハウを書籍し、プログラム作り・改善に活かす場としたいと考えています。

■実施内容

日時：平成２８年７月８日（金）　15：00～18：00

場所：和歌山大学基礎教育棟　Ｇ２０９講義室

テーマ：「アクティブ・ラーニング」の考え方

目的：各分野の副専攻カリキュラム設計の見直し、地域協働セミナーにおける授業手法への応用など。

概要：アクティブ・ラーニングの概念的思考の枠組みと具体例についてのレクチャー。

それを踏まえて副専攻プログラムの見直し。

講師：株式会社知識創発研究所　代表取締役 CRO

東北学院大学 地域協働教育推進機構 特任教授　松崎光弘氏

時　間	内　容
15：00～	問題意識・関心事項の共有ワーク
15：30～	アクティブ・ラーニングの考え方レクチャー
16：30～	質疑応答
17：00～	副専攻プログラムへの落とし込みワーク
17：30～18：00	全体共有ワーク

●お申し込み

E メールにて「所属」「氏名（ふりがな）」をご記入の上、下記宛先までお申込みください。

E-mail: cocjimu@center.wakayama-u.ac.jp

●お問合せ先

和歌山大学 COC＋推進室

℡：073-457-7147

2. 第 2 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修）

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」

第 2 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修）実施状況

日時：平成 28 年 9 月 14 日（水）　13：30～16：30

場所：和歌山大学基礎教育棟　G209 講義室

テーマ：「PBL の考え方と実施体制」

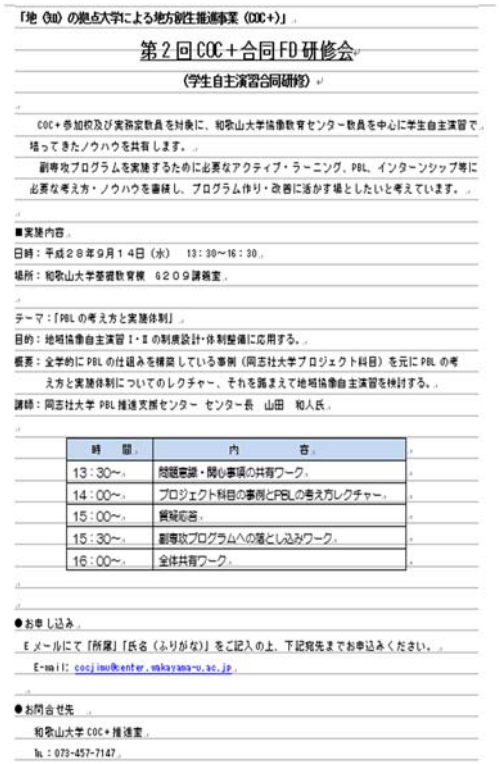
目的：地域協働自主演習Ⅰ・Ⅱの制度設計・体制整備に応用する。

概要：全学的に PBL の仕組みを構築している事例（同志社大学プロジェクト科目）を元に PBL の考え方と実施体制についてのレクチャー、それを踏まえて地域協働自主演習を検討する。

講師：同志社大学 PBL 推進支援センター センター長　山田　和人氏

参加者：5 機関　5 名（参加校教員、実務家教員）及び本学教職員　32 名

【案内要項及び実施風景】



「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

第２回 COC＋合同 FD 研修会

（学生自主演習合同研修）

COC+参加校及び実務家教員を対象に、和歌山大学協働教育センター教員を中心に学生自主演習で培ってきたノウハウを共有します。

副専攻プログラムを実施するために必要なアクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ等に必要な考え方・ノウハウを書籍し、プログラム作り・改善に活かす場としたいと考えています。

■実施内容

日時：平成２８年９月１４日（水）　13：30～16：30

場所：和歌山大学基礎教育棟　６２０９講義室

テーマ：「PBL の考え方と実施体制」

目的：地域協働自主演習Ⅰ・Ⅱの制度設計・体制整備に応用する。

概要：全学的に PBL の仕組みを構築している事例（同志社大学プロジェクト科目）を元に PBL の考え方と実施体制についてのレクチャー、それを踏まえて地域協働自主演習を検討する。

講師：同志社大学 PBL 推進支援センター センター長　山田　和人氏

時　間	内　容
13：30～	問題意識・関心事項の共有ワーク
14：00～	プロジェクト科目の事例とPBLの考え方レクチャー
15：00～	質疑応答
15：30～	副専攻プログラムへの落とし込みワーク
16：00～	全体共有ワーク

●お申し込み

E メールにて「所属」「氏名（ふりがな）」をご記入の上、下記宛先までお申込みください。

E-mail: cocjisu@center.wakayama-u.ac.jp

●お問合せ先

和歌山大学 COC＋推進室

℡：073-457-7147

3. 第 3 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修）

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」

第 3 回 COC＋合同 FD 研修会（学生自主演習合同研修）実施状況

日時：平成 28 年 9 月 23 日（金）　13：30～16：30

場所：和歌山大学基礎教育棟　G209 講義室

テーマ：「PBL のプログラム設計」

目的：地域協働自主演習Ⅰ・Ⅱのプログラム作りに応用する。

概要：企画立案型 PBL プログラム事例を元に、教育効果を高めるプログラムの流れ作り、ワークシートなどのツールを解説、それを踏まえて地域協働自主演習を検討する。

講師：和歌山大学 協働教育センター 講師　木村　亮介

参加者：1 機関　1 名（参加校職員）及び本学教職員　17 名

【案内要項及び実施風景】

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

第３回 COC＋合同 FD 研修会

（学生自主演習合同研修）

COC＋参加校及び実務家教員を対象に、和歌山大学協働教育センター教員を中心に学生自主演習で培ってきたノウハウを共有します。

副専攻プログラムを実施するために必要なアクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ等に必要な考え方・ノウハウを審議し、プログラム作り・改善に活かす場としたいと考えています。

■実施内容

日時：平成２８年９月２３日（金）　13：30～16：30

場所：和歌山大学基礎教育棟　Ｇ２０９講義室

テーマ：「PBL のプログラム設計」

目的：地域協働自主演習Ⅰ・Ⅱのプログラム作りに応用する。

概要：企画立案型 PBL プログラム事例を元に、教育効果を高めるプログラムの流れ作り、ワークシートなどのツールを解説、それを踏まえて地域協働自主演習を検討する。

講師：和歌山大学 協働教育センター 講師　木村　亮介氏

時　間	内　容
13：30～	問題意識・関心事項の共有ワーク
14：00～	PBLのプログラム設計レクチャー
15：00～	質疑応答
15：30～	副専攻プログラムへの落とし込みワーク
16：00～	全体共有ワーク

●お申し込み

Ｅメールにて「所属」「氏名（ふりがな）」をご記入の上、下記宛先までお申込みください。

E-mail: cocjimu@center.wakayama-u.ac.jp

●お問合せ先

和歌山大学 COC＋推進室

℡：073-457-7147

【3】全学 FD・SD 研修会
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

和歌山大学 FD・SD 研修会実施状況

日時：平成 28 年 8 月 3 日（水）　16：30～18：00
場所：和歌山大学観光学部棟　T101 講義室
参加者：3 機関　5 名（COC+参加校教職員）及び本学教職員　87 名

第 1 部　　和歌山大学での反転授業・E ラーニングと他大学の調査報告
　講師：和歌山大学システム情報学センター教育システム・コンテンツ部会長
　　曽我　真人

第 2 部
　テーマ：大学連携を通じたコンテンツ共有と質保証の取組
　講師：千歳科学技術大学教授　小松川　浩氏

6. その他の取り組み

【1】副専攻周知活動

・学内向け説明会（新入生向け）各学部ガイダンス

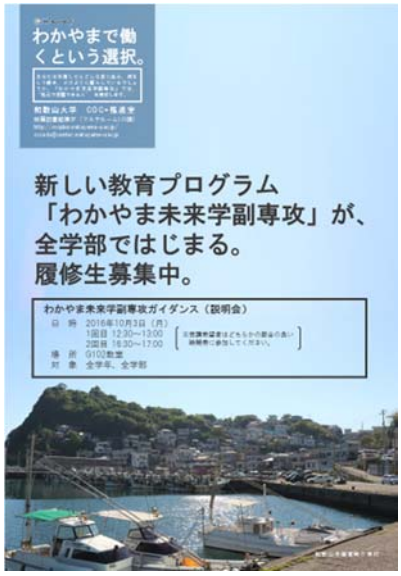
2016 年 4 月 6 日、各学部にて新入生ガイダンスが行われました。そこで、わかやま未来学副専攻の導入にあたる「わかやま未来学」の履修説明を行いました。

ちらし（表）

ちらし（裏）

・副専攻プログラム説明会

2016 年 10 月 3 日、わかやま未来学副専攻に向けたプログラム説明会を実施しました。今回の説明会では、来年度からの「実践型インターンシップ」に向けて、この後期に開講される「地域協働セミナー」の受講を主として説明を行いました。



告知用ポスター

企画した和歌山県クイズ

メインロードへのポスター掲示

学部掲示板（経済学部）

COC＋推進室前の設置

COC+推進室前の掲示板

学食内告知

和歌山大学協働教育センター
平成 28 年度クリエフォーラム
「学生によるプロジェクト活動を皆さまにご紹介します。」

クリエフォーラム

【2】第 12 回和歌山大学教育研究集会「ワダイ夢活フォーラム」

1. 事業概要・目的

和歌山大学では、学生と教職員が教育に係る情報共有と課題認識を深め、教育の質的向上を図ることを目的とした「教育研究集会」を実施してきた。本年度から COC+推進室が主体となり、和歌山大学および COC+事業協働実施機関とともに教育を通じた地方創生の実現に向けた議論を行う公開討論会を実施した。

2. 実施内容

プログラムは 2 部構成となっており、第一部では、和歌山大学経済学部同窓会柑芦会が主催している「香村賞ビジネスプラン」の授与式、優秀賞の受賞学生によるプレゼンテーションを行った。

第7回「香村賞ビジネスプラン」受賞一覧		
	学部/チーム名	テーマ
優秀賞	経済学部3年 前山美沙希（代表） 坂下桃花、中崎麻伊	おむつポーチ （商品名：Mote-cha）
奨励賞	経済学部3年 高家陽香（代表） 林野有希、松井萌佳	食器をデコレーションするクレヨンの販売 （商品名：Plate-プラテ-）
奨励賞	経済学部1年 瀬田大史（代表） 谷ミヒャエル	GLOBE NATION ～Make the Globe a Nation:世界をひとつに～
審査員特別賞	システム工学部3年 福井龍一	IoT技術を用いた自動水やりシステム

第二部では、『町に「新しい価値」をうみだす：わかやま県内の地域活性化プロデュース事例』をテーマに、公開討論会を行った。公開討論会は、森口佳樹（和歌山大学副学長・COC+推進室長）による COC+事業の取り組み説明から始まり、和歌山県内の地域活性化に向けた取り組み事例の発表〈①「加太を映画祭でプロデュースー学生の視点から見えることー」野尻野翼氏（観光学部 4 年生）、②「橋本市をオムレツでプロデュース」北岡慶久氏（橋本市経済推進部農林振興課課長）〉を行った。最後にパネルディスカッションとして発表者 3 名と青柳明雄氏（柑芦会会長）を通して地方創生に向けた議論を深めた。参加者数は、91 名（学生 27 名、学長 1 名、理事 1 名、教員 23 名、職員 27 名、学外者 12 名）であった。学外からは大阪市立大学、摂南大学、日本政策金融公庫、田辺市役所、橋本市役所、橋本市市議会議員等からの参加があった。

3. 今後の展開

今年度から COC+推進室と主体として企画を進めたことから、本学のみに留まらず、COC+事業協働実施機関の方にも参加いただき、意見交換を図ることができました。教育による地方創生の実現に向け、よりオープンな議論の場となるような環境づくりを行っていきます。

【3】座談会（ワダイノカフェ）「地元」を選ぶ理由とは？－暮らしと地域の関係性－

1. 事業概要・目的

COC+業務の基礎情報となる「和歌山県内への定住・定職」の実態を探ることを目的に、県内在住者（地元進学地元就職、U ターン、I ターン者）5 名を招き、座談会を開催しました。本会は、和歌山市・和歌山大学地域連携推進協議会が主催するワダイノカフェの企画として実施した。

参加者数：28 名

主　　催：和歌山市
　　和歌山大学地域連携推進協議会

共　　催：和歌山市、和歌山大学

企画協力：和歌山大学 COC+推進室

2. 実施内容

座談会を実施するにあたり、事前調査として県内在住者11名にヒアリングを実施した。内容としては、居住地を軸としてライフストーリーを聞き取り、和歌山居住に至るまでの実態を可視化した。このシートを基に座談会を実施した。

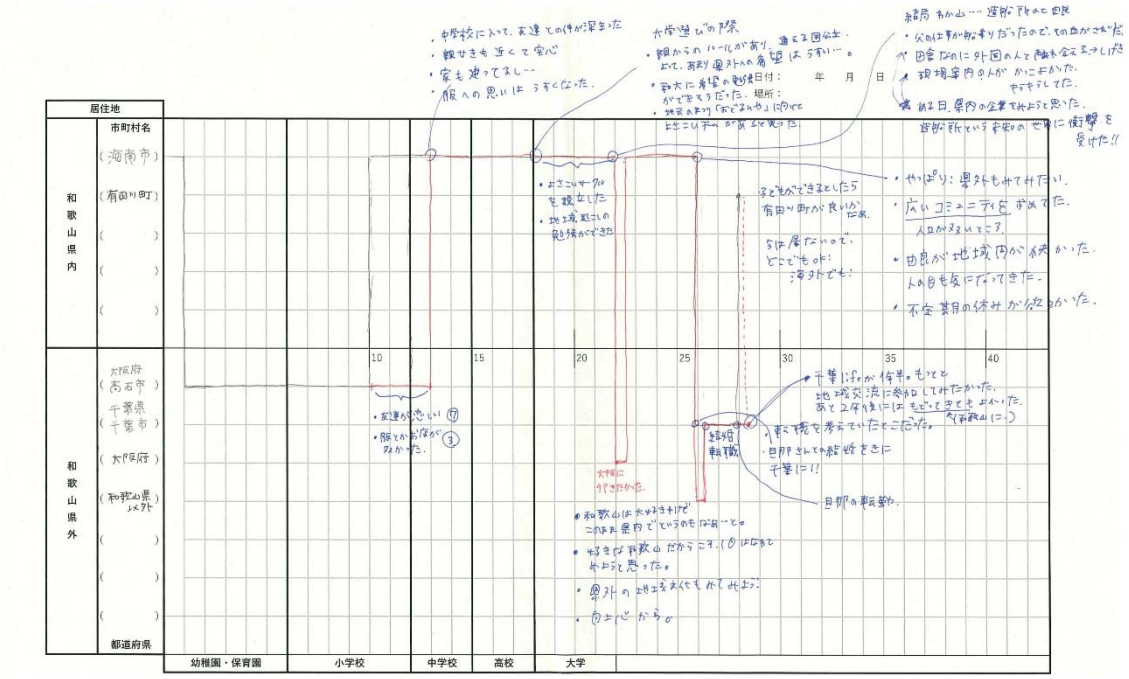
座談会当日は、東日本大震災における被災地の復興事例をもとに居住地の選択理由について話題提供を行った。

続いて、事前調査した中から□地元進学、②地元就職、③U ターン、④I ターンの 4 人に準備してもらったライフストーリーシートをもとに、これまでの居住地変遷と選択理由、その時々の思い出や価値観、また「なぜ和歌山に住むことになったのか」を話してもらった。来場者にもライフストーリーシートを作成してもらい、それぞれのライフストーリーについて共有していきました。

最後にこれまでの話を踏まえて**和歌山ならではの暮らし方**（和歌山で暮らす良さなど）についてグループワークを行いました。会場からは様々な意見が出ました。

ライフストーリの発表の様子

グループワークの様子



ライフストーリーを可視化したワークシートの記入の一例

〈ひとに関すること〉
・穏やかな人が多い
・人とつながりやすい
・子どもの教育を行うにはいい場所

〈場所・立地に関すること〉
・都会のような通勤電車から解放
・関最国際空港が近い
・2 時間あればリフレッシュできる場所（自然）にいける

〈生活環境に関すること〉
・新鮮な野菜や果物が手に入りやすい
・他地域と比べてスーパーの品が新鮮
・海・山・川の 3 拍子

3. 今後の展開

今回の座談会では、「和歌山県内への定住・定職」の実態を探るために、和歌山で暮らす方々に、それぞれのライフストーリーを含めて、和歌山という場所に至った経緯や選択した理由を聞くことができた。今後は、ここで得た情報を活かし、和歌山を選択する人物像の特徴や和歌山を選ぶ傾向の分析を進め、COC+事業の教育プログラムへと反映させていく予定です。

グループワークアイディア

【4】わかやま未来学シンポジウム「わかやま未来学」を考える

1. 目的

平成 28 年度より地域志向科目として新たに開講した全学必修科目群の一つである「わかやま未来学」の取組の一環として、教員と学生がともにわかやまの未来を学び議論を行う事で、これからのわかやまで必要となる教養について考えるとともに、全学を対象にした教養科目の手法について知見を得ることを目的とする。

2. 日時・場所

2017 年 1 月 19 日（木）　4 限目　14 時 50 分－16 時 30 分　和歌山大学 G102 教室

3. 参加者

わかやま未来学（後期）受講学生 83 名、学内教職員・聴講学生 19 名　　合計　102 名

4. テーマ

大学と新聞と地域の未来

5. プログラム内容

・趣旨説明

・4 人のパネリストから自己紹介・活動紹介

・パネルディスカッション・まとめ

6. パネリスト

・武和楽士氏（元 熊野新聞社 記者/フリーランス）

・喜田義人氏（紀伊民報 記者）

・万谷絵美氏（和歌山経済新聞記者/株式会社 Crop 代表取締役）

・天野雅郎　（「わかうら壁しんぶん」記者/和歌山大学「教養の森」センター長 教授）

（コーディネーター 佐藤祐介 和歌山大学「教養の森」センター/ COC+推進室 講師）

【実施風景】

【5】分析・評価（「わかやま」学群、地域協働セミナー受講生アンケート）

■わかやま学群受講生に対するアンケート（前期）

和歌山大学の学生が選択必修で履修する教養科目である「わかやま」学群の授業を履修した学生を対象に、アンケート調査を実施した。アンケートは初年次学生からの回答を出来る限り広く収集するために教養かつ選択必修科目である「わかやま」学群の受講生を対象とした。具体的には前期開講科目である 5 科目「わかやま未来学」、「熊野スタディーズ」、「わかやまの先人たち」、「わかやまを学ぶ」、「グローカル起業論」の授業を通じて配布・回収を行った。アンケートの実施は、当該科目の担当教員が授業を利用して学生に依頼し、記入後その場で回収したが、回答自体は学生の任意とした。5 科目を重複して受講した学生は初回時のみの回答とした。アンケートの実施時期は 2016 年 7 月 19～28 日であった。

アンケート内容は主に 5 つから構成されている。性別や学部・学年の（1）属性情報、（2）入学前後の居住地、（3）地域活動への参加の程度、授業を受けた上での（4）和歌山県への興味・関心、および（5）入学時の希望就職地を調査した。アンケートの回答は学生の任意とし、無記名で実施した。本報告書では、特に初年次学生の現状把握および、「わかやま」学群の教育活動の効果に着目して、（1）属性情報、（4）和歌山県への興味・関心について分析を行う。

はじめに、アンケートの回答者の属性について記述する。アンケート回答者数は 702 名、5 科目の延べ履修者（1,057 名）に対する回答率は 66.4%であった。このうち初年次学生の回答者数は 521 名であり、これは全 4 学部の 1 年次在籍者 938 名のうち 55.5%に相当した。ただし、学部ごとの回答者数にはばらつきがあり、教育学部とシステム工学部が多く、経済学部が少なかった（表 1）。なお、本報告で以降用いる初年次学生のデータは、性別が無回答であった教育学部の 1 名を除いた 520 名（全 4 学部の 1 年次在籍者に占める回答者の割合 55.4%）を対象とした。

表 1　学部・学年別の回答者数

学部	1年次	2年次	3年次	4年次	未回答	合計	1年次在籍者に占める回答者の割合
教育学部	176	25	15	5	2	223	99.4%
経済学部	75	2	11	1	0	89	23.5%
システム工学部	206	54	34	13	0	307	65.4%
観光学部	64	10	5	0	0	79	50.4%
その他	0	0	0	0	2	2	―
未回答	0	0	0	0	2	2	―
合計	521	91	65	19	6	702	55.5%

次に、初年次学生へのわかやま学群の教育効果を評価するために、和歌山県への興味・関心の程度について分析する（表 2）。全学部をみると、「大いに深まった」と「深まった」を合わせると、48.5%とおおよそ過半数であった。学部別にみると、すべての学部で「深まった」との回答者が最も多かった。しかし、その割合には学部間で違いがみられ、最も深まったのが観光学部、続いて経済学部と教育学部であり、システム工学部では興味・関心の程度があまり深まっていなかった。

表 2　授業後の和歌山県への興味・関心の程度

和歌山県への興味・関心	学部				合計
	システム工学部	観光学部	教育学部	経済学部	
大いに深まった	5 2.4%	10 15.6%	11 6.3%	3 4.0%	29 5.6%
深まった	77 37.4%	29 45.3%	77 44.0%	40 53.3%	223 42.9%
どちらともいえない	65 31.6%	15 23.4%	50 28.4%	17 22.7%	147 28.2%
あまり深まらなかった	26 12.6%	6 9.4%	18 10.2%	6 8.0%	56 10.7%
全く深まらない	33 16.0%	3 4.7%	17 9.7%	8 10.7%	61 11.7%
未回答		1 1.6%	2 1.1%	1 1.3%	4 0.8%
合計	206 100%	64 100%	175 100%	75 100%	520 100%

なお、ここで取り扱った「わかやま学」群履修生対象のアンケート調査（前期）については、次の論文にて、出身地や性別と地域指向の関係など詳しい分析・考察を行っており、本報告書の結果も同論文からの一部抜粋である。

冨永哲雄、田代優秋、佐藤祐介、大坪史人、友渕貴之

『初年次学生における希望就職地の選択の現状－「わかやま未来学副専攻」に関する学生アンケートから－』　和歌山大学教養の森センター紀要（2017）印刷中

■わかやま学群受講生に対するアンケート（後期）

前項と同様の意図をもって、「わかやま」学群の受講生を対象としたアンケートを行った。具体的には後期開講科目である 2 科目「わかやま未来学」、「和歌山トップ企業経営論」の授業を通じて配布・回収を行った。アンケートの実施は、当該科目の担当教員が授業を利用して学生に依頼し、記入後その場で回収したが、回答自体は学生の任意とした。「わかやま未来学」、「和歌山トップ企業経営論」の双方を受講した学生は初回時のみの回答とした。アンケートの実施日時は 2017 年 2 月 2 日であった。

アンケート内容は主に 6 つから構成されている。性別や学部・学年の（1）属性情報、（2）入学前後の居住地、（3）地域活動への参加の程度、授業を受けた上での（4）和歌山県への興味・関心、（5）入学時と現在の希望就職地、および（6）副専攻の登録希望について調査した。この内容は前期実施の質問項目に沿って構成し、今回は（5）と（6）の項目を修正・追加している。アンケートの回答は学生の任意とし、無記名で実施した。本報告書では、前項と同様に、特に初年次学生の現状把握および、「わかやま」学群の教育活動の効果に着目して、（1）属性情報、（4）和歌山県への興味・関心、（6）副専攻の登録希望について分析を行う。なお、アンケート実施時期が前項の前期実施分と本項の後期実施分では約 7 ヶ月離れているため、この両者のデータは通算せず、別個の調査として報告する。

はじめに、アンケートの回答者の属性について記述する。アンケート回答者数は 250 名、2 科目の延べ履修者（488 名）に対する回答率は 51.2%であった。このうち初年次学生の回答者数は 193 名であり、これは全 4 学部の 1 年次在籍者 938 名のうち 20.6%に相当した。ただし、学部ごとの回答者数にはばらつきがあり、経済学部とシス

テム工学部が多く、教育学部と観光学部が少なかった（表 3）。なお、本報告で以降用いる初年次学生のデータは、報告では重複回答や無回答などアンケートの指示に従っていない 3 名を除いた 190 名を対象とした。

表 3　学部・学年別の回答者数

学部	1年生	2年生	3年生	4年生	未回答	合計	初年次履修者に占める回答者の割合
教育学部	31	2	0	1	1	35	50.8%
経済学部	54	15	5	2	0	76	57.4%
システム工学部	84	18	10	2	0	114	56.4%
観光学部	24	1	0	0	0	25	57.1%
その他	0	0	0	0	0	0	–
未回答	0	0	0	0	0	0	–
合計	193	36	15	5	1	250	55.8%

次に、初年次学生へのわかやま学群の教育効果を評価するために、和歌山県への興味・関心の程度について分析する（表 4）。全学部をみると、「大いに深まった」と「深まった」を合わせると、61.6%と過半数を超えた。各学部別に見ても、教育学部以外の 3 学部において 60%を越えており、教育学部でも過半数が積極的な回答であった。このアンケート調査は年度末の最終回の授業にて行っているため、わかやま学群を初めとした、和歌山大学が行う初年次学生への地域志向的な教育活動が成果を上げていると考えられる。

表 4　授業後の和歌山県への興味・関心の程度

和歌山県への興味関心	学部				合計
	システム工学部	観光学部	教育学部	経済学部	
大いに深まった	3	3	2	3	11
	3.7%	12.5%	6.5%	5.7%	5.8%
深まった	49	12	14	31	106
	59.8%	50.0%	45.2%	58.5%	55.8%
どちらともいえない	18	6	10	13	47
	22.0%	25.0%	32.3%	24.5%	24.7%
あまり深まらなかった	6	3	1	1	11
	7.3%	12.5%	3.2%	1.9%	5.8%
全く深まらない	6	0	4	4	14
	7.3%	0.0%	12.9%	7.5%	7.4%
未回答	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.5%
合計	82	24	31	53	190
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

最後に、副専攻の登録希望に注目した（表 5）。本アンケートでは、副専攻に履修登録を予定している学生は 5 名であった。これは本調査対象の授業２つの初年次学生履修者全体の 2.6%にあたる。受講を予定していないと回答した 115 人（全体の 60.5%）の多さと対照的である。前項や本アンケートで分析したように、わかやま未来学やわかやま学群などの初年次学生に対する地域指向の教育活動により、和歌山県への興味・関心の程度はある程度高まっており、教育成果が認められる。しかし、全学的な地域志向的教育活動だけでは、初年次学生にとって、わかやま未来学副専攻の履修動機に全くつながっていないことが判明した。

このことを踏まえ、学生の副専攻登録を増加させるためには、一般的な地域志向の教育活動を行うことに加えて、副専攻で行われる内容をより具体的に扱う授業を組み合わせることが必要であり、副専攻の導入科目（地域協働セミナー等）の重要性が浮

き彫りになる結果となった。

表 5　わかやま未来学副専攻の受講登録の意向（わかやま学群後期）

わかやま未来学副専攻の受講登録の意向

学部	履修を予定している	履修を予定していない	わからない	未回答	合計
教育学部	2	26	3	0	31
	6.5%	83.9%	9.7%	0.0%	100.0%
経済学部	1	34	17	1	53
	1.9%	64.2%	32.1%	1.9%	100.0%
システム工学部	1	42	38	1	82
	1.2%	51.2%	46.3%	1.2%	100.0%
観光学部	1	13	10	0	24
	4.2%	54.2%	41.7%	0.0%	100.0%
合計	5	115	68	2	190
	2.6%	60.5%	35.8%	1.1%	100.0%

■地域協働セミナー受講生に対するアンケート（1 回目）

わかやま未来学副専攻科目の初年次科目である地域協働セミナーの受講生に対して、アンケートを行うことで、教育活動の効果について分析した。アンケートは地域協働セミナーの「中間ふりかえり」の講義の時間を利用して配布・回収した。アンケートの実施は、当該科目の担当教員が授業を利用して学生に依頼し、記入後その場で回収した。なお、回答自体は学生の任意とした。また、本アンケートは今後の追跡調査を行うため学籍番号を記述する形式とした。アンケートの実施時期は 2016 年 12 月 7 日であった。アンケート内容は主に 6 つから構成されている。性別や学部・学年の（1）属性情報、（2）入学前後の居住地、（3）地域活動への参加の程度、（4）入学時およびアンケート実施時の和歌山県への興味・関心、(5)入学時およびアンケート実施時の希望就職地、(6)副専攻の履修登録予定を調査した。本報告書では、初年次学生の地域協働セミナーにおける教育活動の効果に着目して、（1）属性情報、（4）入学時およびアンケート実施時の和歌山県への興味・関心、（6）副専攻の履修登録予定について分析を行う。

はじめに、アンケートの回答者の属性について記述する。アンケート回答者数は 242 名、履修者（270 名）に対する回答率は 89.6%であった。このうち初年次学生の回答者数は 220 名であり、これは 1 年次履修者 234 名のうち 94.0%に相当した。アンケート回答者はシステム工学部が多く、教育学部が少なかった（表 6）。なお、本報告では重複回答や無回答などアンケートの指示に従っていない 8 名（経済学部 1 名、システム工学部 4 名、観光学部 3 名）を除いた 234 名を有効回答とし、うち初年次学生 214 名に着目して分析対象とした。

表 6　学部・学年別の回答者数（地域協働セミナー1 回目）

学部	学年						
	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	合計	初年次履修者に占める回答者の割合
教育学部	13	1	0	0	0	14	100.0%
経済学部	50	0	1	2	0	53	89.3%
システム工学部	100	13	1	1	0	115	94.3%
観光学部	57	2	1	0	0	60	96.6%
その他	0	0	0	0	0	0	−
無回答	0	0	0	0	0	0	−
合計	220	16	3	3	0	242	94.0%

次に地域協働セミナー等、地域指向的教育活動の初年次学生への教育効果を評価するために、和歌山県への興味・関心の程度について入学時とアンケート実施時の比較を行った。全学部を見ると、授業の中間ふりかえりであるアンケート実施時の興味・関心の

程度は、入学時の関心の程度に比べて、大いに関心がある・関心があるという積極的な回答が増加するかわりに、あまり・全く関心が無いという消極的な回答が減少している。また各学部をみると、すべての学部で、全学部と同じ傾向が見られた。各学部をみると、アンケート実施時の和歌山県への興味・関心について、5 割以上の学生が積極的な回答を行っている（表 7、表 8）。このことから、入学時と比べて地域協働セミナーや「わかやま」学群ほかの和歌山大学が初年次学生に対して行う地域志向的な教育活動によって、学生の和歌山県に対する興味・関心の程度が高まっている事が示唆された。

表 7 入学時における和歌山県への興味・関心

入学時の和歌山県への関心

学部	大いに関心があった	関心があった	どちらともいえない	あまり関心がなかった	全く関心がなかった	合計
経済学部	5	12	18	6	8	49
	10.2%	24.5%	36.7%	12.2%	16.3%	100.0%
教育学部	2	5	1	2	3	13
	15.4%	38.5%	7.7%	15.4%	23.1%	100.0%
システム工学部	3	20	23	27	25	98
	3.1%	20.4%	23.5%	27.6%	25.5%	100.0%
観光学部	7	18	10	12	7	54
	13.0%	33.3%	18.5%	22.2%	13.0%	100.0%
合計	17	55	52	47	43	214
	7.9%	25.7%	24.3%	22.0%	20.1%	100.0%

表 8 和歌山県への興味・関心（地域協働セミナー：中間ふりかえり）

アンケート実施時での和歌山県への関心

学部	大いに関心がある	関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	全く関心がない	合計
経済学部	9	23	12	3	2	49
	18.4%	46.9%	24.5%	6.1%	4.1%	100.0%
教育学部	5	4	3	0	1	13
	38.5%	30.8%	23.1%	0.0%	7.7%	100.0%
システム工学部	6	46	31	12	3	98
	6.1%	46.9%	31.6%	12.2%	3.1%	100.0%
観光学部	12	24	13	4	1	54
	22.2%	44.4%	24.1%	7.4%	1.9%	100.0%
合計	32	97	59	19	7	214
	15.0%	45.3%	27.6%	8.9%	3.3%	100.0%

最後に、初年次学生の 2 年次以降にわかやま未来学副専攻の履修登録を行う意向について着目した。アンケート実施時では、副専攻に履修登録を予定している学生は 34 名であった。これは初年次学生履修者全体の 15.9%にあたる。前述したように、わかやま未来学や「わかやま」学群などの初年次学生に対する地域志向の教育活動により、和歌山県への興味・関心の程度はある程度高まっており教育成果が認められる。しかし、それが功奏して学生の副専攻に登録する動機が高まっているとは言えない結果となった（表 9）。

今後、副専攻の実際の履修登録者を増やすには、わからないと回答した約半数の 98 名をどのように履修登録へとつなげるかを考え、広報活動などを強化することに加えて、次年度以降の講義内容を充実させ、わかやま未来学副専攻の魅力を学生にさらに伝えることが必要である。

表 9　わかやま未来学副専攻の受講登録の意向（地域協働セミナー：中間ふりかえり）

わかやま未来学副専攻の受講登録の意向

学部	受講を予定している	受講を予定していない	わからない	合計
教育学部	0	11	2	13
	0.0%	84.6%	15.4%	100.0%
経済学部	12	13	24	49
	24.5%	26.5%	49.0%	100.0%
システム工学部	6	46	46	98
	6.1%	46.9%	46.9%	100.0%
観光学部	16	12	26	54
	29.6%	22.2%	48.1%	100.0%
合計	34	82	98	214
	15.9%	38.3%	45.8%	100.0%

■地域協働セミナー受講生に対するアンケート（2 回目）

前節と同様に、副専攻科目の教育効果を測定するためにアンケート調査を行った。わかやま未来学副専攻の「最終回」の講義の時間を利用して配布・回収した。アンケートの実施は、当該科目の担当教員が授業を利用して学生に依頼し、記入後その場で回収し

た。なお、回答自体は学生の任意とした。また、本アンケートは今後の追跡調査を行うため学籍番号を記述する形式とした。アンケートの実施日時は 2017 年 2 月 1 日であった。アンケート内容は主に 7 つから構成されている。前回とほぼ同様の、性別や学部・学年の（1）属性情報、(2）入学前後の居住地、(3）地域活動への参加の程度と貢献の意向、(4）アンケート実施時の和歌山県への興味・関心、(5)入学時およびアンケート実施時の希望就職地、(6）副専攻の履修登録予定に加えて、授業最終回に行う今回のアンケートでは（7）講義の満足度・理解度、(8）講義または副専攻への改善点・提案・要望について調査をおこなった。本報告書では、前節同様に初年次学生の地域協働セミナーにおける教育活動の結果に着目して、(1）属性情報、(4）入学時およびアンケート実施時の和歌山県への興味・関心、(6）副専攻の履修登録予定、(7）講義の満足度・理解度、（8）講義または副専攻への改善点・提案・要望について分析を行う。

はじめに、アンケートの回答者の属性について記述する。アンケート回答者数は 213 名、履修者（270 名）に対する回答率は 78.9%であった。このうち初年次学生の回答者数は 193 名であり、これは初年次履修者 234 名のうち 82.5%に相当した。アンケート回答者はシステム工学部が多く、教育学部が少なかった（表 10)。なお、本報告では初年次学生 193 名に着目して分析対象とした。

表 10　学部・学年別の回答者数（地域協働セミナー：授業最終回）

	学年							
学部	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	未回答	合計	初年次履修者に占める回答者の割合
教育学部	10	1	0	0	0	0	11	76.9%
経済学部	42	0	0	2	0	0	44	75.0%
システム工学部	93	7	1	0	0	0	101	87.7%
観光学部	48	3	1	0	0	0	52	81.4%
その他	0	0	0	0	0	0	0	−
未回答	0	0	0	0	0	5	5	−
合計	193	11	2	2	0	5	213	82.5%

2 つ目に、地域協働セミナー等の地域志向的教育活動の初年次学生への教育効果を評価するため、和歌山県への興味・関心の程度について分析を行う。ここでは、前節で取り扱った 1 回目アンケートと、今回の 2 回目アンケート実施時の比較を行った。入学時の関心の程度に比べて、中間ふりかえり時（1 回目実施時)、授業最終回（2 回目実施時）と時間が経過するにつれて、「大いに関心がある」・「関心がある」という積極的な回答が増加するかわりに、あまり・全く関心が無いという消極的な回答が減少した（図 1)。授業最終回時点では、「大いに関心がある」・「関心がある」と回答した学生が 80%以上となった。

また、本講義（地域協働セミナー）を受講したことによる和歌山県への興味・関心の深化（表 3）の回答結果をみると、80%以上の学生が、「大いに関心が深まった」・「関心が深まった」と回答するなど、ほとんどの学生が積極的な回答を行っている（表 11)。入学時と比べて地域協働セミナーや「わかやま」学群ほかの和歌山大学が初年次学生に対して行う地域指向的な教育活動によって、学生の和歌山県に対する興味・関心の程度が高まっているという事が示唆された。

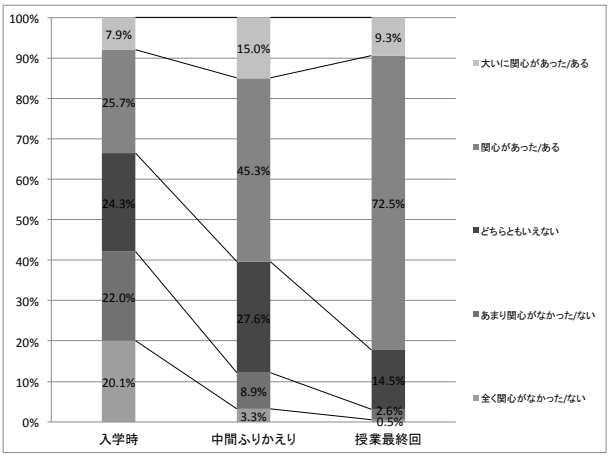


図 1 入学時と中間ふりかえり、授業最終回での和歌山県への興味・関心の比較

表 11 地域協働セミナーを受講したことによる和歌山県への興味・関心の深化

学部	大いに関心が深まった	関心が深まった	どちらともいえない	あまり関心が深まらなかった	全く関心が深まらなかった	未回答	合計
教育学部	2	4	3	1	0	0	10
	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
経済学部	4	34	4	0	0	0	42
	9.5%	81.0%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
システム工学部	6	71	11	3	1	1	93
	6.5%	76.3%	11.8%	3.2%	1.1%	1.1%	100.0%
観光学部	6	31	10	1	0	0	48
	12.5%	64.6%	20.8%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	18	140	28	5	1	1	193
	9.3%	72.5%	14.5%	2.6%	0.5%	0.5%	100.0%

3 つ目に、地域協働セミナーの授業評価指標として、講義の満足度と理解度について議論する。まず、授業の満足度については、全体で「大いに満足」・「満足」と回答した学生が約 77%と言う結果となった。また、「どちらともいえない」と回答した学生が約 20%であった。一方、「あまり満足ではない」・「まったく満足ではない」と回答した学生は 3%とごく少数であった。各学部別を見ても大きく傾向は変わらず、大多数の学生が地域協働セミナーに満足したと回答する結果となった（表 12）。

表 12 地域協働セミナーの満足度

	授業の満足度					
学部	大いに満足	満足	どちらともいえない	あまり満足ではない	まったく満足ではない	合計
教育学部	2	5	2	0	1	10
	20.0%	50.0%	20.0%	0.0%	10.0%	100.0%
経済学部	3	30	6	1	2	42
	7.1%	71.4%	14.3%	2.4%	4.8%	100.0%
システム工学部	8	59	24	0	2	93
	8.6%	63.4%	25.8%	0.0%	2.2%	100.0%
観光学部	5	36	7	0	0	48
	10.4%	75.0%	14.6%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	18	130	39	1	5	193
	9.3%	67.4%	20.2%	0.5%	2.6%	100.0%

理解度では、「あまり理解できなかった」・「全く理解出来なかった」と回答した学生が存在しなかった。また、「大いに理解できた」・「概ね理解出来た」と回答した学生が 90%弱となった（表 13）。前述の満足度の結果と合わせると、授業内容がフィールド関係者等ゲストに多数登壇してもらうなど学生にとって親しみやすい形式を取ったことで、学生が授業で取り扱った内容に満足につながっていると考えられる。

表 13 地域協働セミナーの理解度

	授業の理解度						
学部	大いに理解できた	概ね理解できた	どちらともいえない	あまり理解できなかった	まったく理解できなかった	未回答	総計
教育学部	3	5	2	0	0	0	10
	30.0%	50.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
経済学部	3	34	4	0	0	1	42
	7.1%	81.0%	9.5%	0.0%	0.0%	2.4%	100.0%
システム工学部	11	69	12	0	0	1	93
	11.8%	74.2%	12.9%	0.0%	0.0%	1.1%	100.0%
観光学部	5	39	4	0	0	0	48
	10.4%	81.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	22	147	22	0	0	2	193
	11.4%	76.2%	11.4%	0.0%	0.0%	1.0%	100.0%

4 つ目に、わかやま未来学副専攻の履修登録の意向について検討を行う。全体で「受講を予定している」と回答した学生は 35 名、「受講を予定していない」と回答した学生は 71 名、「わからない」と回答した学生は 86 名であった。中間振り返りの結果と比較しても、ほぼ割合に変化がない結果となった（表 14）。

表 14 わかやま未来学副専攻の受講登録の意向（地域協働セミナー：授業最終回）

	わかやま未来学副専攻の受講登録の意向				
学部	履修を予定している	履修を予定していない	わからない	未回答	合計
教育学部	1	8	0	1	10
	10.0%	80.0%	0.0%	10.0%	100.0%
経済学部	12	9	21	0	42
	28.6%	21.4%	50.0%	0.0%	100.0%
システム工学部	6	42	45	0	93
	6.5%	45.2%	48.4%	0.0%	100.0%
観光学部	16	12	20	0	48
	33.3%	25.0%	41.7%	0.0%	100.0%
総計	35	71	86	1	193
	18.1%	36.8%	44.6%	0.5%	100.0%

この結果は、現状の地域協働セミナーの授業における学生への副専攻登録への働きかけの限界を示しているとも言える。一方で、本来の学部や専攻の必修授業との関係で、次年度の自分自身の時間割が予想できない学生も一定数存在するため、「わからない」と回答する学生の多さにつながっていると考えられる。

最後に、講義または副専攻への改善点・提案・要望について概観する。この項目は自由記述方式である。全部で 51 件の記入があり、うち 6 件は「特になし」であった。意見を概観すると、主なものは「授業全体に対して好意的な記述」「授業方法やグループワークの方法・規模・人数」、「座席指定の賛成・不賛成」等であった。

授業方法やグループワークの方法・規模・人数については、通常の講義と比べてグループワーク形態をとることに積極的な意見があげられた一方で、大人数でのグループワークや発表のやりにくさをあげる意見や、講義内でグループワークに費やす時間が少ないとの意見、人数が多い教室ではなく、少人数での講義を希望する意見もあった。また、観光系の話題が多く、教育系の内容が少ないという指摘、各テーマに対して複数回の登壇を要望する意見もあった。座席指定については賛否双方の意見があった。座席が指定されることで面識のない学生同士と交流する機会になったという積極的な意見に対して、座席指定によって教壇から遠くなりスライドが見えにくいという意見やそもそも座席指定がわかりにくいという意見もあった。

今後、これらのアンケート結果に留意しつつ、副専攻を全学的な取り組みとして実質的なものとするために、授業改善・開発を進めていくことが必要である。

【参考資料 1】わかやま学群受講生に対するアンケート用紙（前期）

「わかやま未来学副専攻」に関する
学生アンケート（お願い）

① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
※記入しないでください（事務局記入欄）

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

次の質問１～９を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を"１個だけ"塗りつぶして下さい。

【質問１】あなたの学部は　① 経済　② 教育　③ シス工　④ 観光　⑤ その他

【質問２】あなたの学年は　① 1年　② 2年　③ 3年　④ 4年以上　⑤ その他

【質問３】あなたの性別は　① 男性　② 女性

【質問４】大学入学以前に住んでいた地元（市町村）はどこですか？
（①を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① （＿＿＿＿＿）都・道・府・県　（＿＿＿＿＿）市(区)・町・村　② 海外などその他

【質問５】大学入学後に住んでいる市町村はどこですか？（②を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① 地元（実家等からの通学）
② 大学入学前と異なる：（＿＿＿＿＿）都・道・府・県　（＿＿＿＿＿）市(区)・町・村

【質問６】あなたは、大学生活の中で地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？

① すでに参加している　② 関心はあるが、参加まではしていない　③ 関心がないので参加していない
④ 関心がないが、やむなく参加している　⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない

【質問７】「わかやま」学群の授業科目を受講したことにより、和歌山県について関心が深まりましたか。

① 大いに関心が深まった　② 関心が深まった　③ どちらともいえない
④ あまり関心が深まらなかった　⑤ まったく関心が深まらなかった

【質問８】入学時に「就職地（卒業後の居住地）」の希望は持っていましたか？

① 【質問４】で回答した地元に戻り就職したい　② 海外で住み、就職したい
③ 和歌山県内で就職したい　④ 場所は特に問わない
⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）　⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない
⑦ その他（　　）

【質問９】平成２８年度後期から和歌山県をフィールドに地域の課題を解決しながら自らも成長をする"わかやま未来学副専攻"の導入科目である「地域協働セミナー」が始まります。この授業を受講する予定ですか。

① 受講を予定している　② 受講を予定していない　③ わからない

《参　考》　科目名：地域協働セミナー

担当教員	吉村典久 ， 藤田和史 ， 木村亮介 ， 小川宏樹 ， 大浦由美 ， 永瀬節治					
対象学年	１年生	単位数	２単位	曜日・時限	後期水曜日・１時限	講義室	G１０１
授業の概要	わかやま未来学副専攻の導入科目として、和歌山県の「まち」「ひと」「しごと」に関する概要を知る講義。和歌山県の地方都市・地域社会が抱える多様かつ複合的な課題を理解し、その解決に取り組むための基礎知識を学ぶ。副専攻の４つのテーマ「６次産業化」「商品・技術開発」「移住先進地の再興」「命と生活のインフラ」に沿って、それぞれの課題に取り組む様々な立場の方（ゲストスピーカー）から生の話を聞く。現状と課題、そして今後の可能性を学び、それらに自らがいかに取り組んでいくことができるかを考えます。					

【参考資料 2】わかやま学群受講生に対するアンケート用紙（後期）

「わかやま未来学副専攻」に関する
学生アンケート（お願い）

⑪ ●
※記入しないでください（事務局記入欄）

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

次の質問を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を"１個だけ"塗りつぶして下さい。

【質問１】あなたの学部は　① 経済　② 教育　③ シス工　④ 観光　⑤ その他

【質問２】あなたの学年は　① 1年　② 2年　③ 3年　④ 4年以上　⑤ その他

【質問３】あなたの性別は　① 男性　② 女性

【質問４】大学入学以前に住んでいた地元（市町村）はどこですか？
（①を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① （＿＿＿＿＿）都・道・府・県　（＿＿＿＿＿）市(区)・町・村　② 海外などその他

【質問５】大学入学後に住んでいる市町村はどこですか？（②を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① 地元（実家等からの通学）
② 大学入学前と異なる：（＿＿＿＿＿）都・道・府・県　（＿＿＿＿＿）市(区)・町・村

【質問６】あなたは、大学生活の中で地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？

① すでに参加している　② 関心はあるが、参加まではしていない　③ 関心がないので参加していない
④ 関心がないが、やむなく参加している　⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない

【質問７】「わかやま」学群の授業科目を受講したことにより、和歌山県について関心が深まりましたか。

① 大いに関心が深まった　② 関心が深まった　③ どちらともいえない
④ あまり関心が深まらなかった　⑤ まったく関心が深まらなかった

【質問８】入学時に「就職地（卒業後の居住地）」の希望は持っていましたか？

① 【質問４】で回答した市町村(地元)で就職したい　② 海外で住み、就職したい
③ 和歌山県内で就職したい　④ 場所は特に問わない
⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）　⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない
⑦ その他（　　）

【質問９】現在、「就職地（卒業後の居住地）」の希望はありますか？

① 【質問４】で回答した市町村(地元)で就職したい　② 海外で住み、就職したい
③ 和歌山県内で就職したい　④ 場所は特に問わない
⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）　⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない
⑦ その他（　　）

【質問10】後期水曜１限「地域協働セミナー」を受講していますか？

① 受講している　② 受講していない

【質問11】"わかやま未来学副専攻"を履修する予定ですか？

① 履修を予定している　② 履修を予定していない　③ わからない

【参考資料 3】地域協働セミナー受講生に対するアンケート用紙（1 回目）

「わかやま未来学副専攻」に関するアンケート【地域協働セミナー 第1回】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

次の質問を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を"1個だけ"塗りつぶして下さい。

【質問１】あなたの学部は　① 経済　② 教育　③ システム工　④ 観光　⑤ その他

【質問２】あなたの学年は　① 1年　② 2年　③ 3年　④ 4年以上　⑤ その他

【質問３】あなたの性別は　① 男性　② 女性

【質問４】大学入学以前に住んでいた地元（市町村）はどこですか？

（①を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① （＿＿＿＿）都・道・府・県　（＿＿＿＿）市(区)・町・村　② 海外などその他

【質問５】大学入学後に住んでいる市町村はどこですか？（②を選ばれた方は、下線部も記入してください）

① 地元（実家等がある市町村からの通学）

② 大学入学前と異なる：（＿＿＿＿）都・道・府・県　（＿＿＿＿）市(区)・町・村

【質問６】あなたは大学生活の中で、地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？

① すでに参加している　② 関心はあるが、参加まではしていない　③ 関心がないので参加していない

④ 関心がないが、やむなく参加している　⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない

【質問７】入学時に和歌山県について関心がありましたか。

① 大いに関心があった　② 関心があった　③ どちらともいえない

④ あまり関心がなかった　⑤ まったく関心がなかった

【質問８】現在、和歌山県について関心がありますか。

① 大いに関心がある　② 関心がある　③ どちらともいえない

④ あまり関心がない　⑤ まったく関心がない

【質問９】入学時に「就職地」の希望は持っていましたか？

① 【質問４】で回答した市町村(地元)で就職したい　② 海外で住み、就職したい

③ 和歌山県内で就職したい　④ 場所は特に問わない

⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）　⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない

⑦ その他（　　）

【質問10】現在、「就職地」の希望はありますか？

① 【質問４】で回答した市町村(地元)で就職したい　② 海外で住み、就職したい

③ 和歌山県内で就職したい　④ 場所は特に問わない

⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）　⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない

⑦ その他（　　）

【質問11】和歌山県をフィールドに地域の課題を解決しながら自らも成長をする"わかやま未来学副専攻"を履修する予定ですか？

① 履修を予定している　② 履修を予定していない　③ わからない

【学生番号】

【参考資料 4】地域協働セミナー受講生に対するアンケート用紙（2 回目）

「わかやま未来学副専攻」に関するアンケート【地域協働セミナー 第2回（最終回実施）】

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から「わかやま未来学副専攻」の充実に資することを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は副専攻や関連授業の改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので、率直に回答してください。

次の質問を読み、黒枠内で最も当てはまる番号の○を"1個だけ"塗りつぶして下さい。

【質問１】あなたは大学生活の中で、地域との交流や、地域課題の解決や支援などにどの程度関わっていますか？

① すでに参加している　② 関心はあるが、参加まではしていない　③ 関心がないので参加していない

④ 関心がないが、やむなく参加している　⑤ そもそも交流の仕方や課題を知らない

【質問２】和歌山県について関心がありますか。

① 大いに関心がある　② 関心がある　③ どちらともいえない

④ あまり関心がない　⑤ まったく関心がない

【質問３】本講義を受講したことにより、和歌山県について関心が深まりましたか。

① 大いに関心が深まった　② 関心が深まった　③ どちらともいえない

④ あまり関心が深まらなかった　⑤ まったく関心が深まらなかった

【質問４】あなたは、これからの和歌山の発展に貢献したいと思いますか？

① とてもそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない

④ あまりそう思わない　⑤ まったく思わない

【質問５】「就職地」の希望はありますか？

① 大学入学以前に住んでいた市町村(地元)で就職したい　② 海外で住み、就職したい

③ 和歌山県内で就職したい　④ 場所は特に問わない

⑤ 和歌山県外で就職したい（海外を除く）　⑥ 卒業後（修了後）のことはあまり考えていない

⑦ その他（　　）

【質問６】"わかやま未来学副専攻"を履修する予定ですか？

① 履修を予定している　② 履修を予定していない　③ わからない

【質問７】以下のうち、どのテーマに最も関心がありますか？

① 6次産業化実践　② 地域づくり戦略構想

③ 地方都市のまちなか再生（和歌山市）　④ 家庭用品イノベーション

⑤ 地域資源を生かした生業づくりとまちづくり（九度山町）　⑥ 自立・地域共生推進（南紀熊野）

⑦ この中にはない

【質問８】本講義の満足度は？

① 大いに満足　② 満足　③ どちらともいえない

④ あまり満足ではない　⑤ まったく満足ではない

【質問９】本講義の理解度は？

① 大いに理解できた　② 概ね理解できた　③ どちらともいえない

④ あまり理解できなかった　⑤ まったく理解できなかった

【質問10】講義の中で特に印象に残った回を複数選択してください。（複数選択可）

① オリエンテーション　② 地方創生と和歌山県の課題

③ まちなか公共空間を再生する―公民連携のまちづくり　④ まちなかで暮らしをつくる―空き家対策と活用に向けた新たな試み

⑤ 中心市街地を再生する―リノベーションによるまちづくり　⑥ 農で地域をつなぐ―秋津野ガルテンの挑戦

⑦ 農の可能性を拓く―和歌山県の農林水産業と6次産業化　⑧ わかやまで暮らす―「田舎暮らし応援県わかやま」と地域医療

⑨ 中間振り返り　⑩ 6次産業化をプロデュースする―地域食ブランディング

⑪ 家庭用品をプロデュースする―産業の概略―　⑫ 家庭用品をプロデュースする―家庭用品産業とその振興―

⑬ 学校と地域を考える―中山間地の教育現場と若者の役割　⑭ 和歌山で起業する―創業事例と支援の取組

⑮ 全体の振り返り

【質問11】本講義、または「わかやま未来学副専攻」に対する改善点、提案、要望

【学生番号】

【6】就職動向

	会社名	住所	事業内容	学内合説参加回数	インターン協力	2016卒
1	株式会社紀陽銀行	和歌山市本町1-35	普通銀行業	1	有	13
2	きのくに信用金庫	和歌山市本町2-38	信用金庫	2	有	4
3	株式会社サイバーリンクス	和歌山市紀三井寺849-3	ITクラウドサービス（流通業・官公庁向け）モバイルネットワークサービス（ドコモショップ）	5		4
4	株式会社島精機製作所	和歌山市坂田85	コンピュータ横編機・デザインシステム・CADCAM・手袋靴下編機の開発・製造・販売	2	有	2
5	株式会社オーエ	海南市大野中1010	キッチン、バストイレタリー・ランドリー等用品	0		1
6	紀陽情報システム株式会社	和歌山市中之島2240	金融機関向け各種システムの開発・運営自治体向け総合行政システムの開発・運営	1	有（除く高専・短大）	3
7	和歌山県信用農業協同組合連合会（JAバンク和歌山県信連）	和歌山市美園町5-1-1和歌山県JAビル	金融業	2		2
8	株式会社松源	和歌山市田屋138	和歌山県・大阪府南部に展開する地域密着型小売業笑顔・元気・感謝、この3つを大切にしています。	3	有	1
9	東洋検査工業株式会社	和歌山市岩橋564-1	鋼構造物非破壊検査、タンク・プラント保安検査、コンクリート構造物調査、地質地盤調査、測量	4		2
10	和歌山石油精製株式会社	海南市藤白758	石油製品製造	1	有	1
11	ありだ農業協同組合	有田郡有田川町天満47-1	金融・共済・経済・営農・販売の各事業	4		1
12	株式会社エスビジョングループ	和歌山市黒田1-2-21	学習塾、予備校のスクール事業その他教育関連事業	4		1
13	株式会社サンレックス	和歌山市久保丁4-65	流通業向けｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｻｰﾋﾞｽプロバイダーソフトウェア・ネットワークの設計・開発・構築・販売	5		1
14	株式会社淺川組	和歌山市小松原通3-69	土木、建築工事の請負ならびに調査、測量、企画設計、施工、監理およびコンサルティング業務	5		1
15	株式会社タカショー	海南市南赤坂20-1	ガーデン用品・エクステリア製品の販売・輸出入販売	1	有	2
16	中野BC株式会社	海南市藤白758-45	各種酒類の醸造販売、健康補助食品梅エキスの製造販売梅果汁・栄養機能食品の製造販売、化粧品の販売	1	有	1
17	和歌山商工会議所	和歌山市西汀丁36	経済団体	3	有（和大のみ）	1
18	川邑宗司税理士事務所	和歌山市湊通丁北4-40	税理士業務、経営コンサルティング、社会保険労務士業務、行政書士業務　他	1		1
19	紀州技研工業株式会社	和歌山市布引466	産業用インクジェットプリンタの製造、販売	3	有	1
20	和歌山ターミナルビル株式会社（ホテルグランヴィア和歌山）	和歌山市友田町5-18	ホテル業、不動産賃貸業、駐車場経営	5	有（和大のみ）	1
21	エコガス株式会社	海南市下津町方433-2	LPガス製造販売・ガス事業・機械設備設計施工	1		1
22	株式会社幸福建設	和歌山市太田2-8-11	注文建築設計・監理施工請負業総合建設業	1		1
23	小西化学工業株式会社	和歌山市小雑賀3-4-77	情報電子材料、機能性樹脂等の機能性化学品の製造	3	有（和高専のみ）	1
24	一般財団法人雑賀技術研究所	和歌山市黒田2-1-20	工業技術の研究開発、環境保全の啓蒙及び支援、食品・農作物の品質安全に関する調査研究及び分析	1		1
25	溝端紙工印刷株式会社	伊都郡かつらぎ町妙寺464	ホテル・レストラン向け紙製品の製造販売一般印刷物の製造販売	0	有	1
26	和歌山県商工会連合会	和歌山市十番丁19Wajima十番丁4F	商工会の組織又は事業について指導又は連絡を行う	2		1
27	株式会社和歌山県農協電算センター	和歌山市美園町5-1-1和歌山県JAﾋﾞﾙ	情報処理全般(システム企画・開発・運用・保守)	5		1
					計	51

【7】視察（県外）

視察日	用務先	用務内容
2016年6月5日	阪急グランドビル	和歌山県U/I就職企業説明会
2016年8月6日	奈良女子大学	3国立大学シンポジウム参加
2016年8月6日	大阪マーチャンダイズ・マート	いなか暮らしフェア参加
2016年8月24～25日	弘前大学	先進事例調査 事業評価についての視察・意見交換
2016年9月7～9日	尚絅学院大学	CDセミナー
2016年9月26～27日	富山国際会議場	富山県立大COC全国シンポジウム
2016年12月10日	ナレッジキャピタル	わかやまでベンチャーin大阪
2016年12月11～12日	島根大、くにびきメッセ	しまね大交流会
2016年12月17日	大阪府立大学	地域活動演習最終発表会
2017年1月19日	広島大学	広島大学 中山間地域・島しょ部領域円卓フォーラム
2017年1月21日	摂南大学	摂南大学PBLプロジェクト最終報告会
2017年1月24日	広島市立大学	広島市立大　COC+フォーラム
2017年1月27日	神戸大学	第2回COC+シンポジウム
2017年2月2日	大阪府立大学	第2回COCフォーラム
2017年2月16日	大阪市立大学	コミュニティ再生（CR）副専攻成果報告会
2017年2月18日	堺刃物ミュージアム	家庭用品イノベーションプロジェクトの見学
2017年3月3日	大阪市立大学	第4回地域連携発表会
2016年3月6～7日	高知大学	COC/COC+全国シンポジウム
2017年3月9日	大阪市立大学	COCフォーラム 「都市型公立大学による地域連携と地域創生」

■富山県立大 COC 全国シンポジウム発表ポスター

7. 紀の国大学参加校の取り組み

【1】プロジェクトマップ（全体図）

紀の国大学　H. 28年度プロジェクトマップ

表記例

プロジェクトの実施機関

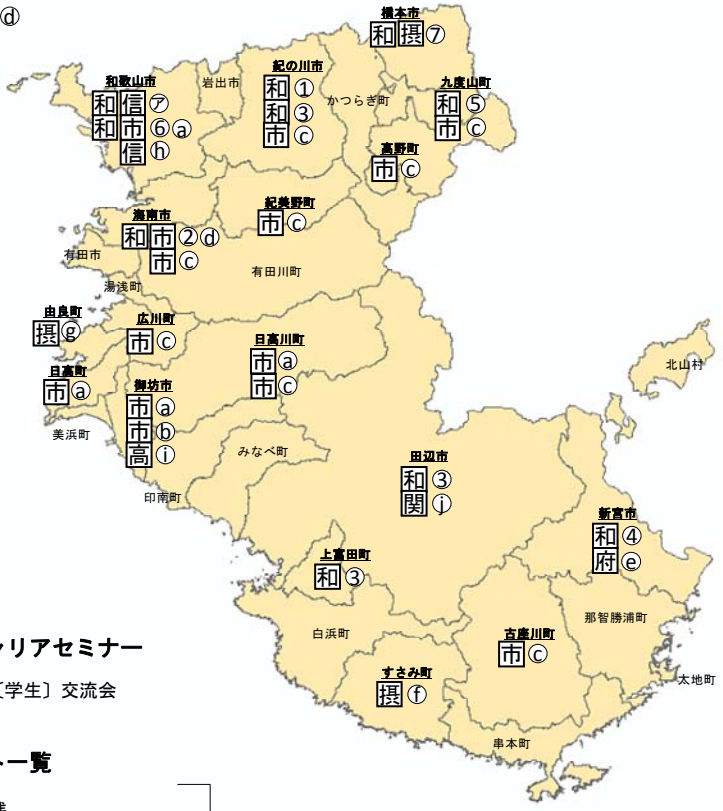
和①
- プロジェクト番号
- 教育機関名

（プロジェクト協働実施の場合）

和市②ⓓ

事業共同機関及び協力校の記載方法一覧

市 大阪市立大学	高 和歌山工業高等専門学校	関 関西大学
府 大阪府立大学	信 和歌山信愛女子短期大学	近 近畿大学
摂 摂南大学	和 和歌山大学	医 和歌山県立医科大学



地域志向キャリアセミナー

㋐〔企業〕×〔学生〕交流会
（和歌山市）

プロジェクト一覧

和歌山大学のプロジェクト

① 6次産業化実践
（紀の川市）

② 家庭用品イノベーション
（海南市）

③ 地域づくり戦略構想
（紀の川市、田辺市、上富田町）

④ 自立・地域共生推進
（新宮市）

⑤ 地域資源を生かした
生業づくりとまちづくり
（九度山町）

⑥ 地方都市のまちなか再生
（和歌山市）

⑦ 高野山麓はしもとインターカレッジ・
コンペディション2016
（橋本市）

ⓐ 紀伊半島における地域再興の学習
－都市・農山漁村の諸相に接する－
（和歌山市、御坊市、日高町など）

ⓑ 防災フィールドワーク
－コミュニティ防災実践－
（御坊市）

ⓒ QOLプロモーション演習
（広川町、日高川町など）

ⓓ ものづくりと都市のあきない
をつなげる学修
（海南市）

ⓔ 新宮市における生活困窮者
自立支援法への対応
（新宮市）

連携機関のプロジェクト

ⓕすさみ町における過疎地域
活性化支援プロジェクト
（すさみ町）

ⓖ「地域と私」
由良町でのフィールドワーク
（由良町）

ⓗきょう育の和
（和歌山市）

ⓘ災害時に役立つ製品の製作
（御坊市）

ⓙ田辺市での環境教育・環境
学習事業
（田辺市）

【2】参加大学の取り組み

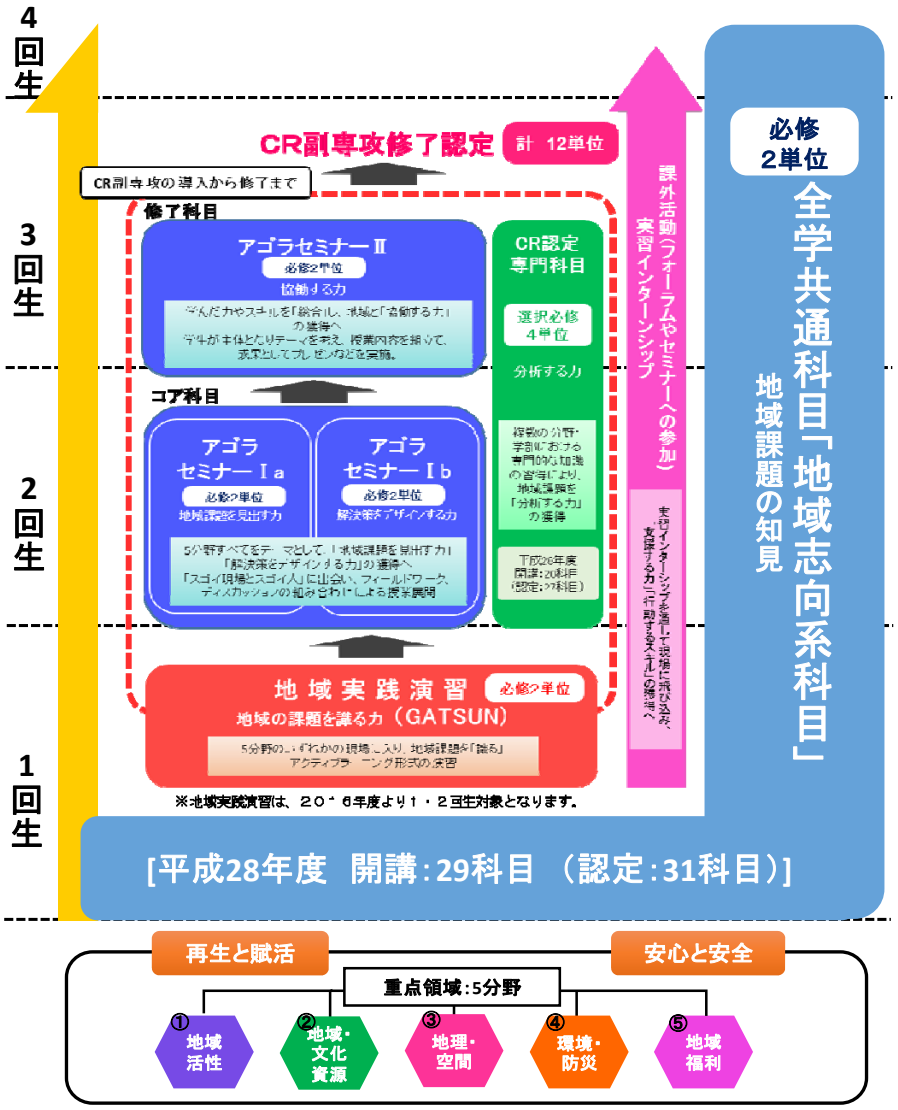
1. 大阪市立大学

■ 教育プログラム概要図（大阪市立大学）

● 地域における複合的な課題と向き合うため、より実践的な人材の育成を目指し地域志向系教育の体系化を行っています。

■大学で地域を知ための**「地域志向系科目」**を2015年度以降の全入学生を対象に必修化して、全学生を対象とすることで、地域を学ぶことのすそ野を拡げます。

■さらに、**コミュニティ再生（CR）副専攻**制度を導入し、「地域実践演習」、「アゴラセミナー」の新設、CR認定専門科目の他学部への開放、実習インターシップの実習（課外）を行います。
CR副専攻を通して、地域課題を「識る」「分析する」「見出す」「伝える」スキル、そして地域に出て「行動する」スキルを修得し、地域と「協働する力」の育成を目指します。



紀伊半島の地域再興の学修（地域実践演習Ⅲ：和歌山市でスタディツアーを実施）

【学 校 名】大阪市立大学
【活動地域】和歌山市
【担当教員】水内俊雄（文学部教授）
　　祖田亮次（文学部准教授）
【協 働 先】和歌山大学、摂南大学
　　和歌山県、和歌山市

1.　事業概要・目的

大阪市立大学では、COC 事業の一環で地域に入り込むアクティブラーニング形式の実践演習プログラムを実施しております。これを COC+事業として、和歌山県のさまざまな地域課題に接することにより、日本の地方が抱える問題のエッセンスを掴むことを主題とした紀伊半島の地域再興の学修を行いました。今回、県庁所在地である和歌山市の再興について、学生が地域に入る体験学習を行うことにより、課題を識る力、まちづくりについて考える力を養うことを目的としました。

2.　取り組み内容

受講生と企画し下記の 3 つのテーマでスタディツアーを実施しました。

1)七曲市場～寂れゆくことのないそ場所～「和歌山の台所」と呼ばれる市場の現状を知るため、商店街や通行人の方の聞き取りを行いました。

2)インバウンドが生む地域再興の可能性　インバウンドツーリストから見た和歌山市の観光イメージを知るため、和歌山市駅前で、外国人観光客へ直撃インタビューで意見を聞きました。

3)かつての企業城下町の今は？

企業城下町の変化と現状を知り、地域のあり方を考えるため、企業城下町であった松江地区内外を歩き、地域の商店の経営者らに地域の変化について話を聞きました。

七曲市場

インバウンド
（リノベーション）

企業城下町（松江地区）

3.　課題と今後の展開

3 つのテーマで、和歌山市のスタディツアーを実施し、いわゆる地方が抱える代表的な課題を現場に接して識ることができました。一方、和歌山市ならではの良さがあり、今後取組みにより活性化が見込めることも知りました。次年度は、さらに将来に向け深堀した展開を図りたいと考えます。

4.　学生/地域の声

今回のスタディツアーを通じて、新しい地域コミュニティの誕生も期待できると感じました。また、地域の方の発想力や行動力に触れることができて楽しく、また和歌山に行きたいと思いました。国内外のバックパッカーと地域の方の交流に驚きました。

紀伊半島の地域再興の学修（地域実践演習Ⅲ：御坊・日高スタディツアーを実施）

【学 校 名】大阪市立大学
【活動地域】御坊市、日高町、日高川町
【担当教員】水内俊雄（文学部教授）
　　祖田亮次（文学部准教授）
【協 働 先】御坊市、日高川町

1.　事業概要・目的

市立大学で取り組んでいる副専攻の導入科目「地域実践演習」の「地域福利」分野では、COC+事業への展開として、紀伊半島の地域再興をテーマとした学修を行いました。今回は、日高川河口小中心都市・御坊と、その流域である日高郡で、2 回の日帰りフィールドワークを実施することにより、課題を識る力、まちづくりについて考える力を養うことを目的としました。

2.　取り組み内容

「すごい人に出会い、場所の力を体感する」をテーマに、学生が主体となり、地元新聞などを情報源として、事前調査を行い、現地調査の企画を練りました。そして、注目した下記の 3 つの分野で活躍されている人たちに聞き取りを行って、地域の現状を識り、地域活性の現場を体感する機会を得ました。

①農林業分野に関しては、花卉栽培、果樹栽培、林業を経営されている人たち、②教育の分野では、子どもたちに学びの場を設けている「地域のおとうさん」や元気な保育の達人たち、

③「御博」という地域の魅力を体験するイベントの場での人材発掘や、地域の繋がり構築を企図してきた人たちに、聞き取り調査を行いました。

3.　課題と今後の展開

人口減少によって都市－農村関係が不安化するなか、地域を活性化するために、U ターン者の「受け皿」の創出、I ターン者自身による I ターン者の誘致、地域における異業種／世代間の関係構築、新発想の田舎暮らしの実践など、様々な活動がなされていることがわかりました。COC+事業としては、人材や資源のバラエティや活力が富んだ、創意あふれる元気な地域は大変魅力であり、今後も継続して「元気」の秘訣を探っていく予定です。

4.　学生/地域の声

✧ 「和歌山 8 割・都会 2 割のライフ／ワーク・バランス」という新発想の暮らしをしている U ターン農家の考えに触れ、目から鱗が落ちました。

✧ 地域内外の方と積極的に交流の場を設け、繋がりにより、I ターン者、U ターン者を呼びよせる働きが地域活性にとても大切だと感じました。

防災フィールドワーク（地域実践演習Ⅱ：御坊市でスタディツアーを実施）

【学 校 名】大阪市立大学
【活動地域】御坊市
【担当教員】生田英輔（生活科学部講師）
　　三田村宗樹（理学部教授）
【協 働 先】和歌山大学、御坊市

1.　事業概要・目的

COC+事業の「わかやま未来学副専攻」のスタートアップセミナーと連動し、大阪市立大学の CR 副専攻の地域実践演習Ⅱの「いのちを守る都市づくり-コミュニティ防災実践-」の学修テーマで、御坊市でまち歩きを通して、スタディツアーを実施しました。コミュニティ防災の基礎について実践を通じて学ぶことにより、地域の防災リーダーとして活躍できる能力の取得を目的とします。

2.　取り組み内容

御坊市防災対策課協力のもと、和歌山大学と合同で、南海トラフ巨大地震による津波浸水や震動災害に想定される地域の災害リスクや災害対策を知るため御坊市と美浜町で、まち歩きを行い、様々な発見を得ることができました。あまり高い山が見当たらない地域なので、高台を避難場所とする工事を見ることができました。

また、過去の津波や水害に関する碑がいくつかあり、先人たちが残してくれた教訓があるということを知り、さらに、古い街並みを歩きましたが、御坊市という街の歴史を垣間見ることができました。

3.　課題と今後の展開

避難施設の運営上の課題や、避難経路や避難場所の住民への周知徹底や、また、古い街並みに関しては、建物やブロック塀の倒壊危険性が指摘されました。振り返り会で、若年層の定着についての提案や、近隣の災害での共助対策強化のアイデアなどの前向きな意見もでました。また「防災と観光」という新しいテーマも出てきて、今後の展開へ繋げていきたいと考えます。

4.　学生/地域の声

津波避難タワーに登れたことがとても印象に残り、いい経験を得ました。また御坊市様の防災に対する取組みで、防災マップを作られたり、きめ細かい活動がたいへん勉強になりました。地域防災について、まち歩きをして、考えるいい経験でした。

地域との共同による QOL プロモーション演習活動

【学 校 名】大阪市立大学
【活動地域】広川町、日高川町、紀の川市、
九度山町、海南市、高野町、
紀美野町、古座川町など
【担当教員】西川禎一（生活科学部教授）
【協 働 先】和歌山社会経済研究所他

1. 事業目的・概要

大阪市立大学では、食品・居住・福祉の 3 つの分野で複合的な教育資源を有する生活科学部の学生が、生活者の QOL（生活の質）を高めるため、地域ニーズの把握を行い、地域とのパートナーシップのもと問題解決にあたる体験型実践演習を、継続的に実施しています。

和歌山県下でも、この活動を実施しており、これにより学生が地域の課題を知り、解決し地域の方との交流を図ることを目的としています。

2. 事業の内容

平成 28 年度も、和歌山県下のいろいろな市町村の農場等に出向き、和歌

山県での特産品としての甘夏、ウメ、桃、イチゴ、ブラックベリー、柿、栗、温州みかんの収穫、こんにゃく、ニンニク、サツマイモの植付け、さらに自然農法による酒米づくり、田植えなどの援農活動を通じて、地域に密着し、地域の方との交流を図りました。

3. 課題と今後の展開

学生が、地域に出向き地域の生活者の方とともに植付けから収穫までといった一連のプロセスを体験する学習であり、場所と日程等の調整が課題となりますが、土日なども活用し、前向きに実施しています。生活問題の実態を把握し、地域の生活者と問題意識を共有しながら、QOL 向上につながる活動を検討して改善策を立案・実行するための演習なので、地域活性化にも反映できるよう、今後も継続的に展開していきたいと考えます。

4. 学生/地域の声

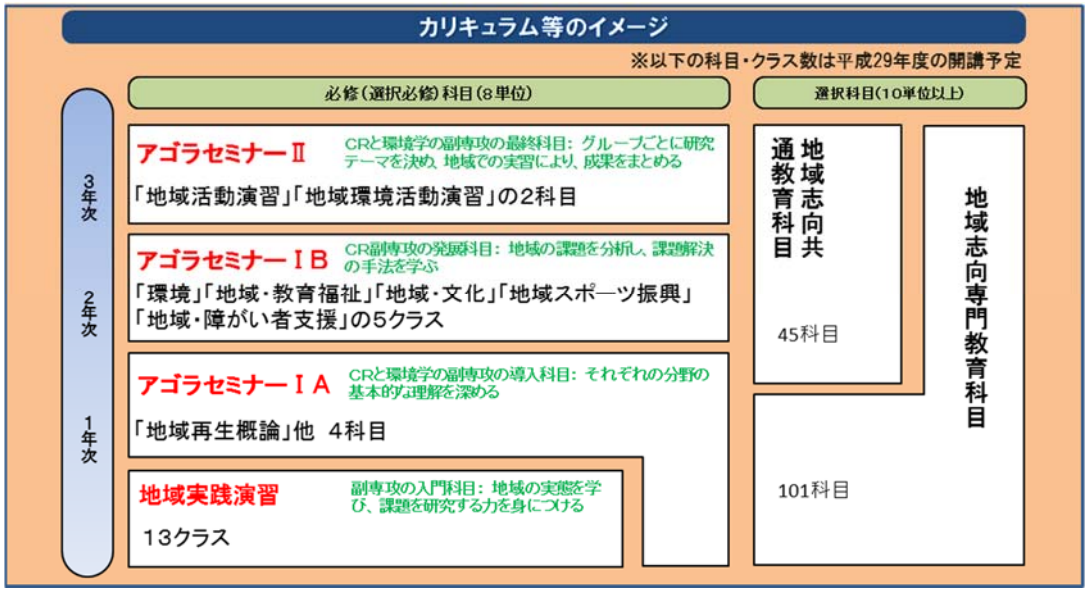
現地に出向いて、地域の方の生活を体験でき、とても貴重な経験を得ることができました。また太陽光を浴び、自然の環境で働き、その後、ミカンなど育てたものをいただくと、数値では計り知れない美味しさを味わうこともできました。地域の皆様に感謝するとともに、他大学の学生さんと交流できたこともいい経験でした。

大阪府立大学の教育プログラム概要図

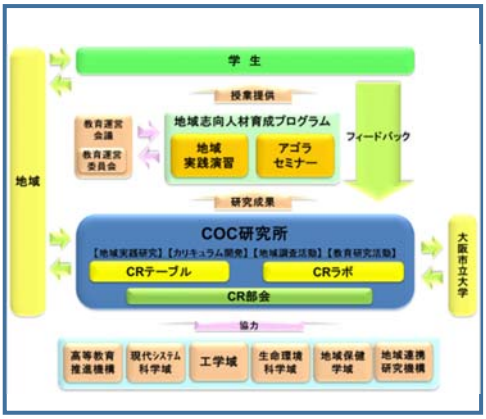
（1） 地域再生（CR）副専攻の目標

「地域再生（Community Regeneration: CR）副専攻」を学士課程に新設し、地域貢献に資する教育研究を行うことにより、地域志向の学生育成とともに、大学が地域の拠点としてその発展に寄与することを目指します。

（2） カリキュラムのイメージ



（3） 地域貢献と推進体制（COC 研究所）



平成 29 年度　和歌山大学 岸和田サテライトでの講義

地域・文化 （アゴラセミナーＩＢ）の開講準備

【学 校 名】大阪府立大学
【活動地域】岸和田市
【担当教員】西田 正宏 （代表教員）
【協 働 先】和歌山大学

1.　事業概要・目的

和歌山県を中心にその周辺地域（泉佐野市や岸和田市など）には、多くの文化資源が残っている。城は言うまでもなく、各地に伝わる伝承を記した碑や、寺社もそうであろう。名所図会のような文献に残されたこともまた「文化資源」と呼べるかもしれない。これら「文化資源」がはたして、その地域を再生するために有効にはたらくであろうか。あるいは有効にはたらかせるためには、どのような方法が考えられるであろうか。以上のような視点から、さまざまな文化資源を取り上げ、その内実を知るとともに、その有効性について考察する。

2.　取り組み内容

「紀の国大学協議会単位互換制度」に資する科目として、本講義を開講いたします。講義は、複数教員によるオムニバス形式の集中講義とし、本学教員だけでなく、和歌山大学の先生方にも、講義を行って頂きます。

＜講義予定＞

【8 月 9 日（水）】
1. ガイダンス
（大阪府立大学 教授・西田 正宏）
2. 和歌山周辺をめぐっての学生との対話（大阪府立大学 准教授・前川 真行、教授・西田 正宏）
3・4. 万葉の勝地としての和歌山を見直す（和歌山大学 教授・菊川 恵三）

【8 月 10 日（木）】
1・2. 「まち」をあるくということ
（前川 真行）
3・4. 道成寺をめぐる説話と伝承
（和歌山大学 准教授・大橋 直義）

【8 月 11 日（金・祝）】
1・2. 『紀伊国名所図会』は地域再生に有効な視点を提供するか
（西田 正宏）
3・4. 蟻通神社と和歌をめぐる伝承について（大阪府立大学 教授・青木 賜鶴子）

【8 月 24 日（木）】
1・2・3. 学生による発表とまとめ
（西田 正宏）

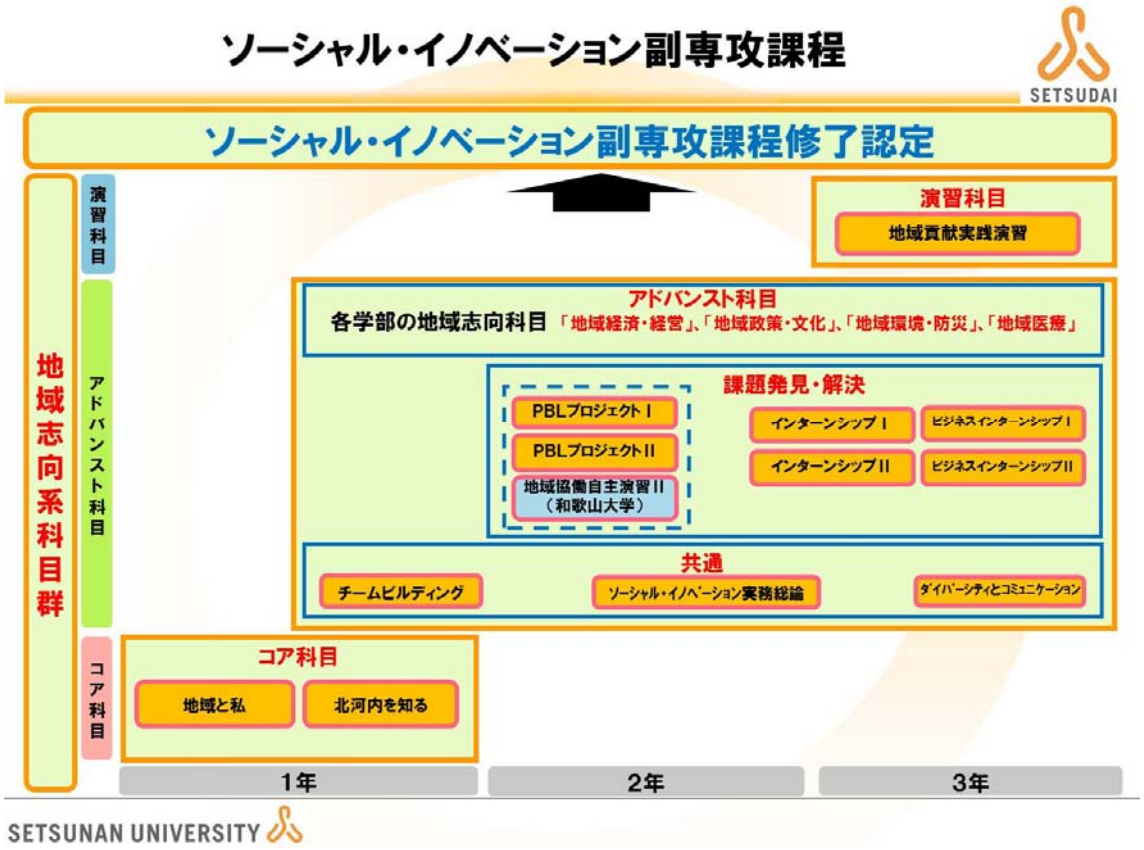
※全 15 コマ中、10 コマを市民に開放いたします。

3.　今後の展開

本科目とは別に、単位互換科目として本学の科目（「地域再生概論」「地域実践演習」）を提供いたします。

なお、本科目は和歌山大学では、「わかやま未来学」の教養科目「文化遺産と地域再生」として、開講されます。

3. 摂南大学


ソーシャル・イノベーション副専攻課程
SETSUDAI
ソーシャル・イノベーション副専攻課程修了認定
地域志向系科目群
演習科目
アドバンスト科目
コア科目
演習科目
地域貢献実践演習
アドバンスト科目
各学部の地域志向科目 「地域経済・経営」、「地域政策・文化」、「地域環境・防災」、「地域医療」
課題発見・解決
PBLプロジェクトⅠ
PBLプロジェクトⅡ
地域協働自主演習Ⅱ（和歌山大学）
インターンシップⅠ
ビジネスインターンシップⅠ
インターンシップⅡ
ビジネスインターンシップⅡ
共通
チームビルディング
ソーシャル・イノベーション実務総論
ダイバーシティとコミュニケーション
コア科目
地域と私
北河内を知る
1年
2年
3年
SETSUNAN UNIVERSITY

副専攻科目「地域と私」における由良町でのフィールドワーク

【学 校 名】摂南大学
【活動地域】由良町
【担当教員】鶴坂　貴恵
（経営学部経営情報学科教授）
【協 働 先】由良町

1. 事業目的・概要

本取り組みは、2016 年度から開設した「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の必修科目「地域と私」（1 年次配当）の授業内で実施したものです。本科目では、地域課題を 4 領域からとらえ、テーマごとに学習した上で現地に赴きます。由良町とは「大学のふるさと協定」を締結し、さまざまな事業で協働しています。履修学生が過疎地域である由良町の実情を肌で感じ、課題の発見と解決策の立案につなげることが目的です。

2. 事業の内容

学生は、副専攻課程に設けている 4 領域（「地域経済・経営」「地域観光・防災」「地域政策・文化」「地域医療」）の中から、由良町内で調査したい領域をグループ単位で選択しました。フィールドワークの前には由良町関係者の講演により町の現状や課題を認識し、事前学習を通して理解を深めました。当日は 4 領域ごとに、町の観光名所、空き家、高齢者施設、小学校などの視察や関係者の講話の聴講、ヒアリングを実施しました。実施後は学びや気づきをまとめてプレゼンテーションを行い、履修学生のほか、由良町の関係者や教職員が聴講しました。

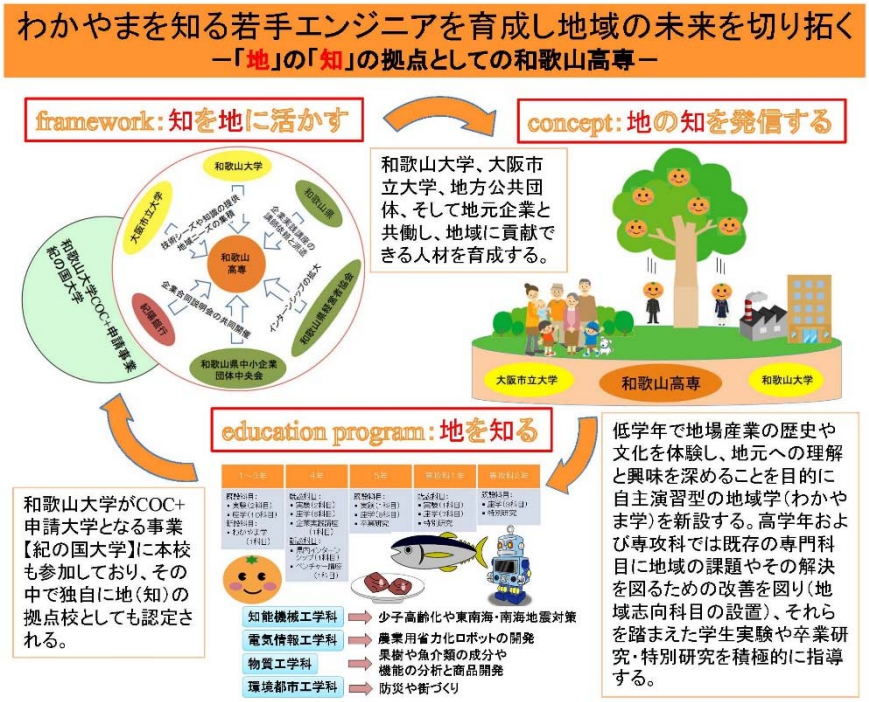
3. 課題と今後の展開

フィールドワークは日帰りのため、現地での滞在時間が短いという学生の意見が多くありました。これを踏まえ、短時間でも密度の濃いワークができるようコンテンツの見直しを行います。またこの体験をさらに応用、発展できるような 2 年次配当科目として、由良町を題材にした PBL（Project-Based Learning）を展開します。

4. 学生の声

・実際に自分の目で由良町を見て、都会との大きなギャップに驚きました。
・観光地や自然、豊富な食材に恵まれているのに人が訪れないことを改善するためには、知名度の向上や交通の整備が必要だと感じました。

4. 和歌山工業高等専門学校



災害時に役立つ製品の製作　～高齢者に優しく～（卒業研究）

【学校名】和歌山工業高等専門学校
【活動地域】御坊市
【担当教員】古金谷圭三
（知能機械工学科准教授）
【協働先】丸紀木材工業株式会社
（県内企業）

1.　事業概要・目的

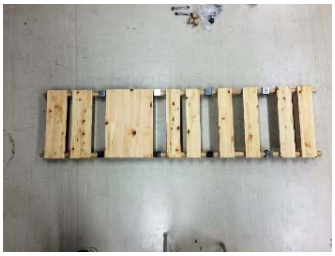
和歌山工業高等専門学校では、学生にこれまで習得した専門的な知識を土台にして、地域の特徴（地勢、産業、特産品等）や諸問題に関連するテーマを中心に卒業研究の研究課題を選択させ、担当教員の指導を受けながら研究を行っている。

2.　取り組み内容

平成 28 年度の卒業研究の取り組みの一つに、災害時の救急病院などで、運び込まれた被災者や高齢者へ横になるためのベッドを提供するという複合機能を有した椅子を考案・製作を行なった。

通常時は「椅子」として使用し、災害時などいざというときに「ストレッチャー」に変形・利用できるように設計されている。「ストレッチャー」変形後に、キャスターの代わりに脚を付け、2 台を 1 セットとすれば、高さは低いが「ベッド」としても利用可能となる。

製作に使用する材料として地元の産品を使うことを念頭に置き、今回は抗菌効果が有るとされる「紀州ヒノキ」を採用した。このヒノキなどの材料の提供、及びこれらの木材加工の作業には、地元企業である丸紀木材工業株式会社様のご協力をいただくことが出来た。



ストレッチャーとしての形状

椅子としての形状

3.　課題と今後の展開

今回、地元企業の協力・連携により学生の研究を進めることができた。今後も学生に対し、地元企業の協力を得た研究活動を行う機会を与えられるよう、またそれにより県内の産業の魅力を伝えることを考えている。

4.　学生/地域の声

普段、県内地元企業と直接接することが少ない私達学生にとって、地元企業を理解する良い機会・経験となりました。特に、細部にまでこだわりを持って、ものづくりに取り組んでいる企業の方の姿を直接見ることができたことが、良かったと思いました。

事業の概要・目的

和歌山県における以下の3つの「きょう育」

- 子育て・子育ちに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する『教育』
- 地域が共に子育てに関わる社会を育む『共育』
- 教育から共育、そして郷育へ、この世代間の循環による地域活性化を目指す『郷育』

を実現し、和歌山を子育てしやすく、住みよい『和（なごみ）の街　和歌山』として活性化する試みです。

カリキュラムツリー

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
COCコア科目	「紀の国わかやまと世界」			
COC発展科目	「子育て・子育ちサポーター養成講座」			
実践的教育プログラム			「卒業研究」	

ふたご・みつご大交流会

【学 校 名】和歌山信愛女子短期大学
【活動地域】和歌山市
【担当教員】森下順子（きょう育の和センター副センター長・教授）
【協 働 先】和歌山市、和歌山大学、和歌山県立医科大学

1. 事業概要・目的

子育て当事者・支援者のネットワークである子育て・子育ちネットワーク「共育の輪」会員と本学、本学学生が共に子育て支援について考え、情報を共有することにより、子育て支援のイベントを企画する。平成 28 年度は昨年度に引き続き、多胎児育児支援として、「ふたご・みつご大交流会」を企画・実施した。計画段階より学生スタッフが参加したことで、多くの学生ボランティア参加を見込む。

2. 取り組み内容

事前の会議では、「共育の輪」会員らがそれぞれの所属する団体ごとに得意な分野を担当すると共に、学生ボランティアの代表者からイベントで行う工作プログラムの提案について、多胎児育児経験者よりアドバイスなどが行われた。交流会当日は、ふたごの親子、子育て支援関係者（「共育の輪」会員を含む）の皆さん、和歌山市の保健師、和歌山大学生 3 名・和歌山県立医科大学生 4 名・和歌山信愛女子短期大学生 68 名の学生ボランティアを含め、総勢 200 名が集い、温かい雰囲気の笑顔あふれる楽しい会となった。高校生のふたごを育てている保護者の公演、「共育の輪」会員による人形劇など、親子で楽しめるプログラムを通じて、学生達は子育て支援関係者の想いや、ふたごの子育ての実際を知ることができました。

3. 課題と今後の展開

平成 27 年度・28 年度と 2 年連続ふたご・みつご大交流会を実施し、次年度の子育て・子育ちネットワーク「共育の輪」企画は未定となっている。参加者や学生からは、この取り組みを継続して欲しいとの声がある一方、多胎児以外の親子を対象とした子育て支援を求める「共育の輪」会員の意見も有り、企画会議で検討する。

4. 学生/地域の声

企画会議から参加し、当日はふたごの子どもや保護者の方々と共に時間を過ごし、子育てについて理解を深めることができました。このような交流会を通して、これからも地域とつながりながら学んでいきたいと思います。

6. 関西大学

田辺市での環境教育・環境学習事業～熊野本宮子どもエコツアー～

【学 校 名】関西大学
【活動地域】田辺市本宮町、大塔村
【担当教員】安田忠典、谷所慶
（人間健康学部准教授）
【COC+推進室】田代優秋、大坪史人
【協 働 先】和歌山大学、和歌山県、田辺市、堺市（大阪府）、NPO 熊野本宮、田辺市熊野ツーリズムビューロー、JA 紀南とみさと女性会

1. 事業概要・目的

堺市と平成 26 年度に友好都市提携を結んだ和歌山県田辺市の本宮地区をフィールドに、“健全な青少年の育成と環境保全”をテーマにした、市民(子ども)×学生×地域住民が交流する新しいスタイルの地域連携型の体験学習を実施している。「熊野本宮子どもエコツアー」として、5 年前から堺市の小学 5～6 年生を対象に 30 名を受け入れ、学生が児童と一緒に林業体験や地元の祭の手伝いを行う中で、環境学習事業を展開している。また、本年度は田辺市の大塔地区でも、エコツアーのフィールド開拓を行った。

2. 取り組み内容

熊野本宮子どもエコツアーは、3 泊 4 日で行われ、関西大学人間健康学部の学生 31 名、堺市の小学生 30 名、協働機関等から 12 名が参加した。

1 日目は、テントの設営と近くの川で水遊びを行った。

2 日目は、林業体験にキャンプファイヤー、3 日目は、熊野古道のトレッキングと八咫の火祭参加、4 日目に振り返りを行い閉校した。大塔地区では、「野外活動特別演習」のフィールドワークとして行い、JA とみさと女性会のメンバーからこんにゃくづくりを体験させてもらい、カヌー体験の実習を行った。

3. 課題と今後の展開

本宮熊野エコツアーは 5 年経過した。堺市では人気もあり、年数回、固定メンバーを連れて紀南地域でキャンプを行う、エコ倶楽部化を検討している。その中で、紀の国大学が 1 回分を担うなどの可能性を検討していく。

4. 学生/地域の声

地域の人からは毎年、継続的に関西大学の学生と子どもたちが八咫の火祭りで踊ってくれるので、とても感謝している。また、エコツアーに児童を参加させている保護者からも行政機関や関西大学が主催であるため、安心して子どもを参加させることができると好評をいただいている。

【3】参加自治体・参加企業の取り組み

1. 自治体：和歌山県

地域づくりワークショップへの大学生の参加

【学 校 名】和歌山大学
【活動地域】紀の川市、田辺市、上富田町
【担当教員】大浦由美（観光学部教授）
【COC+推進室】大坪史人、友渕貴之
【協 働 先】和歌山県、紀の川市、田辺市、上富田町

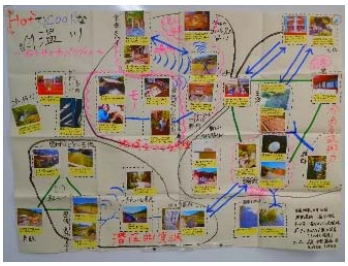
1. 事業概要・目的

水土里のむら機能創出支援事業は、和歌山県が平成 17 年度から開始した事業で 10 年の歴史を持ちます。

人口減少・過疎化にともなう集落の合意形成機能や共同活動といったむら機能の低下が要因となり、農村環境の保全や文化の継承など多様な課題が生じてきているなかで和歌山県は地域住民自らが、地域を知り、考え、行動するためのワークショップを通じた機運づくりが大変有効であると考え、住民の話し合いや地域資源の掘り起こし、さらには現在の活動のフォローアップなどを通じて地域の未来を示すビジョンづくりを行っています。

2. 取り組み内容

住民の方の声から地域の課題や資源を評価し、写真により地域資源の現状を把握・共有し、イラストアイデアにより地域が今後



向かうべき具体的な実行計画の提案を行います。第一回 WS：ワークショップを起点とした地域活性化の事例を学びました。また、問題意識の地図を作成し問題意識の共有化、現地調査を行います。現地調査：現地で地域を元気にする角度から地域資源の写真を撮影します。第二回 WS：撮影された写真を広げ、類似するものをまとめ地域を表現した資源写真地図を作成します。第三回：イラストアイデア地図を作成し、取り組みの優先度、必要性を参加者で共有し、実行計画表を作成し、今後の地域活動の青写真を作成します。

3. 課題と今後の展開

次年度は、和歌山大学の地域実践演習 II において、協働し、学生に地域づくりのために必要な地域の課題抽出、分析手法、ファシリテート能力の基礎を学んでもらいます。

4. 学生/地域の声

地域の方からは、WS で計画を立ててからが、スタートなので継続的活動に参加していってもらえると地域活性化につながるという意見を頂いた。

2. 自治体：橋本市・紀陽銀行

インカレコンペを通じた地域と大学連携

【学 校 名】和歌山大学、摂南大学
【活動地域】橋本市
【担当教員】和歌山大学：金子泰純（システム工学部教授）、藤田和史（経済学部准教授）
摂南大学：田井義人（経済学部准教授）
【COC+推進室】冨永哲雄、大坪史人
【協 働 先】橋本市、紀陽銀行

1. 事業概要・目的

橋本市は 2016 年度から「高野山麓はしもとインターカレッジ・コンペティション（以下、インカレ）」と称し、学生向けのコンペティションを開催した。インカレは、地域内だけでは解決できない課題の解決に向けて、大学の持つ専門的知識や学生の視点を活用しながら地域活性化を図ることを目的にしている。

2. 取り組み内容

2016 年度は、6 チームが参加しており、うち 5 チームが COC+事業の連携校である。表は、参加大学の一覧と発表プランのタイトルである。この発表プランは、4 つのテーマからの選択性としており、①地場産業の振興と人材確保、②農林業の振興、③移住・定住の促進、④交流人口の増加から一つを選択し、活動を行った。2016 年 7 月から募集を行い、8 月末に参加チームの決定を行った。9 月上旬から 10 月にかけて各チームがフィールドワークを行い 11 月にビジネスレポートを提出してもらった上で事前審査を行い、12 月に発表会を行った。また紀陽銀行からは、紀陽銀行の地域活性化の取り組みについて学生たち向けに講演があった。

	大学名	学部	タイトル
1	和歌山大学	経済学部	『橋本市の現状から見えた課題と廃校利用への提案』
2	和歌山大学	経済学部	『移住定住のための情報発信の方法について』
3	和歌山大学	システム工学部	『橋本市に家族で留学してみませんか？～Welcome to Hashimoto ～』
4	近畿大学	経営学部	『小さな７分の１を大きな７分の１へ』
5	高野山大学	-	『文化がそよぐ橋本を夢見る』
6	摂南大学	経済学部	『橋本市ブランド発見に向けての BARMAP 作成』

3. 課題と今後の展開

次年度は、和歌山大学の副専攻プログラム、地域自主演習Ⅱへの導入を予定としている。また、インカレの紀の国大学連携校への拡大のため、準備段階を早める方策を取る事にした。そして今年度実施したインカレでの受賞案の実用化も予定している。

3. 和歌山県経営者協会

県内企業経営者と和歌山大学生との交流会

【学 校 名】和歌山大学
【担当教員】COC+推進室
【協 働 先】和歌山県経営者協会

1. 事業概要・目的

和歌山県経営者協会に所属する企業経営者で構成される「経営のコツを気づく会」の会員に和歌山大学の取り組みを紹介し、学生と交流してもらった。県内企業経営者には COC+事業への理解、協力を依頼し、学生には県内企業をより多く知ってもらうことを目的として和歌山大学見学会および「経営者×大学生大交流会」を開催した。

2. 開催内容

和歌山県経営者協会と和歌山大学 COC+推進室との共催で和歌山大学見学会及び企業経営者と和歌山大学生との交流会が開催された。これには県内企業経営者 22 名、学生 21 名、教職員 14 名、和歌山県や関連団体の来賓 10 名の計 67 名が参加した。和歌山大学見学会においては、観光学部棟のデジタルドームシアターや協働教育の一環として学生教育の自主学習を支援するクリエ（協働教育センター）や附属図書館を見学した。また、観光学部の学生たちが学内施設や各学部の紹介を行い、COC+推進室長からは紀の国大学の事業紹介を行った。

引き続き、学生との交流を目的に「経営者×大学生大交流会」を開催し、各学部の 1 年生から 3 年生、大学院生も参加し、経営者が振り返る「学生のときにやってたらよかったこととは？」をテーマに 5～6 名に分かれ、和気あいあいと交流を行った。

3. 学生/経営者たちの声

普段は、学生たちが県内企業を知る機会や特に企業経営者たちと出会う機会が少ないため学生たちにとってよい経験となった。経営者たちにとっても日頃は今の大学生たちがどのように学んでいるかを知るよい機会となった。見学会、交流会の終了後のアンケートでは企業経営者からは「日頃見学できないところを見ることが出来てよかった」、「学生が伸び伸び学んでいることを知ることができた」、「みなさんしっかりしている」、「学生さんの案内がよかった。」等の感想があり、また学生からは「もう少し交流の時間を取ってほしい」、「これから学ぶべきことを知り、やる気がさらに出た」等の感想があり、互いに満足度の高い充実したイベントとなった。

参考資料

【1】委員会規約・規程

1. 紀の国大学協議会規約

紀の国大学協議会規約

制定　平成 27 年 12 月 24 日

（設置）

第 1 条　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）による「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」を実施するため、紀の国大学協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（目的）

第 2 条　協議会は、和歌山県における地方創生に関して、雇用創出・若者定着に係る事業を推進することにより、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展を実現するため、必要な事項について協議することを目的とする。

（協議事項）

第 3 条　協議会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について協議する。

（1）地域を担う人材育成に関すること。

（2）学生の県内定着率の向上に関すること。

（3）地域の雇用創出に関すること。

（4）その他、地方創生の実現に関すること。

（組織）

第 4 条　協議会は、別表に掲げる職にある者をもって構成する。

（議長）

第 5 条　協議会に議長を置き、和歌山大学長をもって充てる。

2　議長は、協議会を主宰する。

3　議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名する委員が、その職務を代行する。

（会議）

第 3 条　協議会は、第 4 条の別表に掲げる委員 2 分の 1 以上の出席をもって成立する。ただし、第 4 条の別表に掲げる者が出席できないときは、委員の指名する者が、代理し出席することができる。

2　協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。

（開催）

第 7 条　協議会は、原則として年 1 回の開催を定例とする。ただし、議長が必要と認めたときは、臨時にこれを開催することができる。

（協議会委員以外の出席）

第 8 条　協議会が必要と認めた場合は、協議会委員以外の者を協議会に出席させ、その意見を聴くことができる。

（各種委員会）

第 9 条　協議会に次の委員会を置く。

（1）教育プログラム開発委員会

（2）事業評価・FD 委員会

2　委員会に関する事項は別に定める。

（事務）

第 10 条　協議会の事務は、和歌山大学 COC+推進室において処理する。

（雑則）

第 11 条　この規約に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、協議会が定める。

附　則

この規約は、平成 27 年 12 月 24 日から施行する。

附　則　平成 28 年 4 月 28 日一部改正

この改正規約は、平成 28 年 3 月 15 日から施行する。

別表（第 4 条関係）

所　　属	職　名
大阪市立大学	学長
大阪府立大学	学長
関西大学	学長
近畿大学	学長
摂南大学	学長
和歌山県立医科大学	学長
和歌山工業高等専門学校	校長
和歌山信愛女子短期大学	学長
和歌山大学	学長
和歌山県	知事
紀陽銀行	取締役営業推進本部長
和歌山県経営者協会	会長
和歌山県中小企業団体中央会	会長

2. 教育プログラム開発委員会規程

紀の国大学協議会教育プログラム開発委員会規程

（趣旨）

第 1 条　この規程は、紀の国大学協議会規約（平成 27 年 12 月 24 日制定）第 9 条第 1 号の規定に基づき、紀の国大学協議会教育プログラム開発委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第 2 条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

（1）地域を担う人材を育成するための教育プログラムの開発に関すること。

（2）地域と連携した雇用創出及び学生の創業支援に関すること。

（3）その他、地方創生のための教育プログラムの開発に関すること。

（組織）

第 3 条　委員会は、別表に掲げる職にある者をもって構成する。

（委員長）

第 4 条　委員会に委員長を置き、和歌山大学教育・学生・入試担当理事をもって充てる。

2　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（定足数）

第 5 条　委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

（委員以外の者の出席）

第 6 条　委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（専門部会）

第 7 条　委員会に、専門の事項を調査審議するため、次の専門部会を置く。

（1）カリキュラム部会

（2）地域連携・創業支援部会

2　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（事務）

第 8 条　委員会の事務は、和歌山大学学務課において行う。

（雑則）

第 9 条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附　則

この規程は、平成 27 年 12 月 24 日から施行する。

附　則　平成 28 年 4 月 28 日一部改正

この改正規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 3 条関係）

所　　属	職　名
大阪市立大学	副学長
大阪府立大学	副学長
関西大学	人間健康学部准教授
近畿大学	生物理工学部学部長補佐
摂南大学	教務部長
和歌山県立医科大学	地域医療支援センター長
和歌山工業高等専門学校	地域共同テクノセンター長
和歌山信愛女子短期大学	教務部長
和歌山大学	教育・学生・入試担当理事
和歌山県	文化学術課長
紀陽銀行	地域振興部　地域活性化室長
和歌山県経営者協会	事務局次長
和歌山県中小企業団体中央会	事務局次長

3. 事業評価・FD 委員会規程

紀の国大学協議会事業評価・FD 委員会規程

（趣旨）

第 1 条　この規程は、紀の国大学協議会規約（平成 27 年 12 月 24 日制定）第 9 条第 2 号の規定に基づき、紀の国大学協議会事業評価・FD 委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第 2 条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

（1）紀の国大学協議会が実施する事業の評価に関すること。

（2）紀の国大学協議会の開発した教育プログラムに係るファカルティ・デベロップメントに関すること。

（3）その他、紀の国大学協議会の評価及びファカルティ・デベロップメントに関すること。

（組織）

第 3 条　委員会は、別表に掲げる職にある者をもって構成する。

（委員長）

第 4 条　委員会に委員長を置き、和歌山大学大学改革・評価担当理事をもって充てる。

2　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（定足数）

第 5 条　委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

（委員以外の者の出席）

第 6 条　委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（専門部会）

第 7 条　委員会に、専門の事項を調査審議するため、専門部会を置くことができる。

2　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（事務）

第 8 条　委員会の事務は、和歌山大学企画課において行う。

（雑則）

第 9 条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附　則

この規程は、平成 27 年 12 月 24 日から施行する。

附　則　平成 28 年 4 月 28 日一部改正

この改正規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 3 条関係）

所　　属	職　名
大阪市立大学	副学長
大阪府立大学	学長補佐
近畿大学	生物理工学部事務部課長代理
摂南大学	地域連携センター長
和歌山県立医科大学	教授
和歌山工業高等専門学校	副校長
和歌山信愛女子短期大学	教授
和歌山大学	大学改革・評価担当理事
和歌山県	文化学術課長
紀陽銀行	地域振興部地域活性化室長
和歌山県経営者協会	専務理事
和歌山県中小企業団体中央会	専務理事

4. COC＋推進委員会規程（和歌山大学内）
COC＋推進委員会規程

和歌山大学 COC+推進委員会規程

制 定 平成 27 年 11 月 27 日
法人和歌山大学規程第 1704 号
最終改正 平成 28 年 3 月 25 日

（趣旨）
第 1 条 和歌山大学（以下「本学」という。）に，本学における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（以下「COC+」という。）を推進するため，和歌山大学 COC+推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第 2 条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
（1） 事業計画に関すること。
（2） 事業運営に関すること。
（3） 事業予算に関すること。
（4） 事業実施に係る人事に関すること。
（5） その他 COC+の推進に関する重要事項
（組織）
第 3 条 委員会は，次の各号の委員をもって組織する。
（1） 学長
（2） 理事（教育・学生・入試担当）
（3） COC+推進室長
（4） 各学部から選出された教員（評議員） 各 1 名
（5） COC+推進コーディネーター
（6） COC+推進室から選出された教員 2 名
（7） その他学長が必要と認めた者
2 前項第 4 号及び第 6 号の委員の任期は，2 年とする。ただし，任期中欠員が生じ，これを補充した場合の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第 4 条 委員会に委員長を置き，第 3 条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。
2 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
3 委員長に事故のあるときは，あらかじめ委員長の指名した者がその職務を代行する。
（開会）
第 5 条 委員会は，委員の過半数が出席しなければ，委員会を開くことができない。
（議決）

第 6 条 委員会の議事は，出席委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第 7 条 委員会は，必要に応じて委員以外の者の出席を求め，意見を聞くことができる。

（作業部会）

第 8 条 委員会は，必要に応じ事業に関する立案について，作業部会を置くことができる。

（事務）

第 9 条 委員会の事務は，学務課において処理する。

附 則

1 この規程は，平成 27 年 11 月 27 日から施行する。

2 第 3 条第 2 項に定める委員の最初の任期は，平成 29 年 3 月 31 日までとする。

附 則（平成 28 年３月 25 日一部改正：法人和歌山大学規程第 1781 号）

この改正規程は，平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

【2】紀の国大学協議会事業評価実施要項

紀の国大学協議会事業評価実施要項

（趣旨）

第 1 条　この要項は、紀の国大学協議会が実施する事業の評価について必要な事項を定める。

（目的）

第 2 条　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）による「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」の自主的な事業運営の見直し、改善を促し、もって当該事業の質の向上に資することを目的とする。

（定義）

第 3 条　この要項において、事業評価とは、紀の国大学協議会事業評価・FD 委員会が実施する内部評価と紀の国大学協議会関係者以外の外部有識者が実施する外部評価をいう。

（評価の基本方針）

第 4 条　事業評価は次の基本方針により行うものとする。

(1) 事業評価は、5 ヶ年の事業実施計画の達成に向けた業務の進捗状況を確認する観点から行う。

(2) 事業評価は、紀の国大学協議会（以下「協議会」という。）の自己評価に基づき実施するものとする。

（評価の実施時期）

第 5 条　内部評価は、毎事業年度ごとに実施し、外部評価は、事業開始から 3 年目（平成 29 年度）と 5 年目（平成 31 年度）に実施するものとする。

（評価の実施方法）

第 6 条　事業評価の実施方法は次のとおりとする。

(1) 協議会の自己評価

ア．年度別事業評価

協議会は、年度別実施計画の記載項目ごとに、業務の進捗状況を簡潔に記載した「年度別実施計画進捗状況実績確認表」を作成し、次の 5 段階で自己評価を行うものとする。

評価	評価基準
Ⅴ	年度別実施計画を上回って実施している。 （計画の内容を全て達成し、かつ特筆すべき成果がある。）
Ⅳ	年度別実施計画を十分に実施している。 （計画の内容の達成状況が 9 割以上）
Ⅲ	年度別実施計画をおおむね実施している。

	（計画の内容の達成状況が 7 割以上）
Ⅱ	年度別実施計画を十分には実施していない。 （計画の内容の達成状況が 5 割以上 7 割未満）
Ⅰ	年度別実施計画を大幅に下回っている。 （計画の内容の達成状況が 5 割未満）

イ．期間別事業評価

協議会は、事業開始から 3 年目（平成 29 年度）と 5 年目（平成 31 年度）に当該期間における「事業評価実績報告書」を作成し、外部評価を受けるものとする。

(2) 内部評価及び外部評価

ア．内部評価

事業評価・FD 委員会は、協議会が作成した「年度別実施計画進捗状況実績確認表」及び必要に応じて求める追加資料に基づき、業務の実績等を確認のうえ、協議会の自己評価を検証し、評価するものとする。

イ．外部評価

外部有識者が実施する外部評価については、別に定めるものとする。

(3) 答申

評価結果については、協議会に答申するものとする。

（雑則）

第 7 条　この要項に定めるもののほか、事業評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この要項は、平成 28 年 3 月 8 日から実施する。

【3】委員名簿

1. 紀の国大学協議会

機関名		委　員	
		職名	氏名
代表	和歌山大学	学長	瀧　寛和
参加大学	大阪市立大学	理事長 学長	荒川　哲男
	大阪府立大学	理事長 学長	辻　洋
	摂南大学	学長	八木　紀一郎
	和歌山工業高等専門学校	校長	角田　範義
	和歌山信愛女子短期大学	学長	森田　登志子
参加自治体	和歌山県	知事	仁坂　吉伸
参加企業	紀陽銀行	取締役執行役員	日野　和彦
	和歌山県経営者協会	会長	竹田　純久
	和歌山県中小企業団体中央会	会長	妙中　清剛
協力大学	関西大学	学長	芝井　敬司
	近畿大学	学長	塩崎　均
	和歌山県立医科大学	理事長 学長	岡村　吉隆

2. 教育プログラム開発委員会

機関名		委　員		
		所　　属	職名	氏名
代表	和歌山大学		理事(教育･学生･入試担当)/副学長	池際　博行
		経済学部	副学長 教授	森口　佳樹
参加大学	大阪市立大学		理事 副学長	井上　徹
	大阪府立大学		理事 副学長	石井　実
	摂南大学	教務部	部長	荻田　喜代一
		経営学部経営情報学科	教授	鶴坂　貴恵
	和歌山工業高等専門学校	物質工学科	教授・地域共同テクノセンター長	土井　正光
	和歌山信愛女子短期大学		教授 教務部長	芝田　史仁
参加自治体	和歌山県	文化学術課	課長	島　　秀之
参加企業	紀陽銀行	地域振興部 地域活性化室	室長	北野　暢哉
		地域振興部 地域活性化室		土屋　佳子
	和歌山県経営者協会		事務局次長	和田　好史
	和歌山県中小企業団体中央会		事務局長	中井　祥之
協力大学	関西大学	人間健康学部	准教授	安田　忠典
	近畿大学	生物理工学部	学部長補佐・教授	古薗　　勉
	和歌山県立医科大学	地域医療支援センター	教授	上野　雅巳

3. カリキュラム部会

機関名		所　　属	職名	氏名
代表	和歌山大学	システム工学部	教授	金子　泰純
参加大学	大阪市立大学	経済学研究科	教授 教務担当部長	橋本　文彦
	大阪府立大学		副学長 教授	前川　寛和
		COC事務局		岡本　昌俊
	摂南大学	教務部	部長	荻田　喜代一
		教務部	課長	蔦　正美
	和歌山工業高等専門学校	知能機械工学科	准教授・地域共同テクノセンター副センター長	古金谷　圭三
		環境都市工学科	准教授・地域共同テクノセンター副センター長	伊勢　昇
	和歌山信愛女子短期大学		教授 教務部長	芝田　史仁
			事務	宮井 康之
協力大学	関西大学	人間健康学部	准教授	安田　忠典
	近畿大学	生物理工学部	教務委員長・教授	吉田　久
		生物理工学部	事務部　課長	勝又　正裕
	和歌山県立医科大学	地域医療支援センター	教授	上野　雅巳

4.　地域連携・創業支援部会

機関名		所　　属	職名	氏名
代表	国立大学法人 和歌山大学	システム工学部	教授	鰺坂　恒夫
		協働教育センター	講師	木村　亮介
		COC+推進コーディネーター (創業支援)	特任専門職員	児嶋　政則
参加 大学	公立大学法人 大阪市立大学	研究支援課	係長	車田　季之
	公立大学法人 大阪府立大学	COC事務局		岡本　昌俊
	摂南大学	経営学部経営情報学科	教授	鶴坂　貴恵
		就職部	課長	今井　起代
	独立行政法人国立高等専門学校機構 和歌山工業高等専門学校	総合教育科	教授・学生主事	桑原　伸弘
	和歌山信愛女子短期大学		キャリアセンター長	中西　豊
			教授・入試部長	伊藤　宏
参加 自治体	和歌山県	文化学術課	主任	阪中　潤
		労働政策課	主査	伏木　一郎
参加 企業	株式会社紀陽銀行	地域振興部　地域活性化室	室長	北野　暢哉
		地域振興部　地域活性化室	主任	小薮　洋
	和歌山県経営者協会		事務局次長	和田　好史
		インターンシップ推進事業センター	コーディネーター	川口　芳男
			課長代理	津田　健
	和歌山県中小企業団体中央会		事務局長	中井　祥之
協力 大学	関西大学			
	近畿大学	生物理工学部	就職委員長・教授	廣川　敬康
	和歌山県立医科大学	地域医療支援センター	教授	上野　雅巳

5.　事業評価・FD 委員会／専門部会

■事業評価・FD 委員会

機関名		委　員		
		所　　属	職名	氏名
代表	和歌山大学		理事（大学改革・評価担当）	山田　良治
参加大学	大阪市立大学		特命副学長	桐山　孝信
	大阪府立大学		学長補佐 教授	高橋　哲也
	摂南大学	理工学部生命科学科	教授・地域連携センター長	尾山　廣
	和歌山工業高等専門学校	環境都市工学科	教授 副校長	中本　純次
	和歌山信愛女子短期大学		教授	三好　邦男
参加自治体	和歌山県	文化学術課	課長	島　　秀之
参加企業	社紀陽銀行	地域振興部 地域活性化室	室長	北野　暢哉
		地域振興部 地域活性化室	主任	小薮　洋
	和歌山県経営者協会		専務理事	永井　慶一
	和歌山県中小企業団体中央会		専務理事	木下　淳
協力大学	近畿大学	生物理工学部事務部	課長代理	井村　泰明
	和歌山県立医科大学	血液内科学講座	教授	園木　孝志

■専門部会

機関名		委　員		
		所　　属	職名	氏名
代表	和歌山大学	経済学部	教授	藤永　博
参加大学	大阪市立大学	学務企画課		永原・松井
	大阪府立大学	COC事務局	コーディネーター	深谷　清之
	摂南大学	経営学部経営情報学科	准教授	久保　貞也
	和歌山工業高等専門学校	物質工学科	教授 教務主事	野村　英作
	和歌山信愛女子短期大学		教授	三好　邦男
参加自治体	和歌山県	文化学術課	学術振興班長	山田　佳子
参加企業	紀陽銀行	地域振興部 地域活性化室		土屋　佳子
	和歌山県経営者協会		事務局次長	和田　好史
	和歌山県中小企業団体中央会		事務局長	中井　祥之
協力大学	近畿大学	生物理工学部事務部	課長代理	井村　泰明
	和歌山県立医科大学	経営企画課	経営班長	寺村　有史

6. COC＋推進委員（和歌山大学内）

	部 局 名	職 名	氏 名
		理事	池際 博行
(1) 室長	経済学部	副学長 教授	森口 佳樹
(2) 副室長	システム工学部	教授	金子 泰純
(3) 各学部選出教員	教育学部	教授	菊川 恵三
		教授	山崎 直秀
	経済学部	教授	吉村 典久
		准教授	藤田 和史
	システム工学部	教授	宮川 智子
		准教授	曽我 真人
	観光学部	教授	大浦 由美
(4) COC+推進コーディネーター	「教養の森」センター	COC+推進コーディネーター (教育担当)	佐藤 祐介
	学務課	COC+推進コーディネーター (総括)	大道 弘三
	学務課	COC+推進コーディネーター (創業支援)	児嶋 政則
(5) 学務課長	学務課	課長	力久 浩治
(6) その他室長が 必要と認めた者	教育学部	教授	豊田 充崇
	観光学部	教授	尾久土 正己
		准教授	永瀬 節治
	地域連携・生涯学習センター	講師	西川 一弘
	協働教育センター	講師	木村 亮介
	企画課	課長	南方 伸之
	学務課	副課長（キャリア）	三浦 琢磨
	学務課		来島 綾子
(7)専任教員 （教育プログラム担当 特任助教）	COC+推進室	COC+推進コーディネーター 支援員	大坪 史人
			田代 優秋
			冨永 哲雄
			友渕 貴之

【4】報道実績　（新聞）

日付	曜日	媒体名／局名	面・連載	見出し・タイトル
2016年4月29日	金	毎日	地域	「紀の国大学」発足／和歌山大など連携 雇用創出、人口増
2016年4月29日	金	産経	地域	紀の国大学スタート／和歌山大など、地域創生推進へ
2016年5月1日	日	紀伊民報	13面	「紀の国大学」始動／大学や金融機関など連携
2016年5月11日	水	朝日	地域	「紀の国大学」結団式／和大、他大学や企業と連携
2016年5月14日	土	ニュース和歌山	3面	和歌山の未来拓く学生を／和大など連携し「紀の国大学」／創業や地元就職促す授業
2016年5月26日	木	紀伊民報	1面	地域づくりで協定／田辺市と和歌山大
2016年5月27日	金	読売	地域	田辺市と和大協定来月１日
2016年6月8日	水	産経	地域	田辺市　和歌山大と包括協定／連携強化で地域活性化へ
2016年6月11日	土	毎日	地域	人の流れ創出へ連携／和大と市が包括協定
2016年6月15日	水	朝日	地域	和歌山大学が大正大学と提携/地域貢献などで連携
2016年6月17日	金	わかやま新報	7面	和大と大正大が協定／地方創生の人材育成へ連携
2016年6月21日	火	毎日	地域	和歌山大と大正大（東京）協定／御坊に学生滞在　地域の課題研究支援
2016年7月3日	日	わかやま新報	7面	地元企業の説明会　4～8日　和歌山大
2016年7月15日	金	紀伊民報	14面	田辺扇ヶ浜　学生のアイデアに期待／和大、関西大の「海の家」
2016年7月27日	水	紀伊民報	7面	田辺祭　市街地に時代絵巻
2016年9月15日	木	紀伊民報	11面	学生目線でランチマップ／田辺市 和大と連携し作成
2016年9月17日	土	毎日	和歌山	来年3月完成へ 和大生が街歩き調査
2016年9月30日	金	毎日	地域	にぎわい 私たちの手で／和大ゼミ 地域活性化プロジェクト／きょうから 市駅前に歩行者天国／来月9日から カフェやイベント
2016年9月30日	金	わかやま新報	1面	初の24時間超ホコ天／30日～グリーングリーンPJ
2016年10月1日	土	毎日	和歌山	市道でピクニック気分満喫／和歌山市駅前で社会実験スタート
2016年10月24日	月	産経	和歌山	県の「玄関口」として期待
2016年12月25日	日	わかやま新報	3面	地域貢献で和大1位／大学ブランドイメージ調査
2017年1月7日	土	ニュース和歌山	2面	街の魅力アップ 市民が提案／市街地流れる川 活用を
2017年1月26日	木	わかやま新報	7面	観光・経済など幅広く連携/和大と大阪府大が包括協定
2017年1月28日	土	毎日	地域	地域社会貢献へ共同研究／大阪府大と包括連携協定／和歌山大学
2017年1月24日	火	wbs和歌山放送ニュース		和大と大阪府立大が包括連携協定
2017年2月12日	日	紀伊民報	13面	和大サテライト／学部開放授業が好評／社会人 地域の魅力学ぶ
2017年2月22日	水	読売	和歌山	酒販店と和大生連携／地ビールで街おこし／地産品使用商品やイベント
2017年2月22日	水	ニュース和歌山		学生の自主研究一堂に　和大が学外報告会
2017年2月23日	木	わかやま新報	2面	和大クリエフォーラム／3日 学生プロジェクト公開
2017年2月25日	土	産経	和歌山	和歌山市内で居酒屋経営の社長が製造／地ビールにブランド名つけて／和歌山大生らとプロジェクト
2017年2月28日	火	読売	地域	のびのび研究　成果披露/和大・クリエプロジェクト
2017年2月28日	火	毎日	和歌山	和大サテライト/新宮で公開講座　6月から郷土・熊野学学ぶ
2017年2月28日	火	産経	和歌山	和歌山大の「南紀熊野サテライト」/新宮でも学部開放授業/29年度前期から新設
2017年3月1日	水	毎日	和歌山	和歌山大クリエ/学生発案プロジェクト支援
2017年3月1日	水	紀伊民報	11面	新宮で学部開放授業／6月から和歌山大学
2017年3月3日	金	わかやま新報	1面	和歌山愛を地ビールに/和大×三代目プロジェクト
2017年3月9日	木	毎日	地域	地ビール 地域愛で命名を／「総選挙」経て決定／和歌山大生ら募集
2017年3月12日	日	読売	地域	和大 新宮で公開授業／17年度から 地域活性化テーマ
2017年3月24日	金	朝日	地域	和歌山地ビール 愛称決めて／和大生と居酒屋 あすまで「総選挙」
2017年3月24日	金	読売	地域	就業体験で学生起業支援／島精機と和大 連携協定
2017年3月24日	金	毎日	地域	学生の起業支援へ協定／和大と島精機「人材育ってほしい」
2017年3月24日	金	産経	地域	和歌山大システム工学部 島精機製作所と連携協定／学生の実習や研修などに協力
2017年3月25日	土	わかやま新報	7面	創業支援インターン／島精機と和大シスエが協定
2017年3月25日	土	日経	関西広域経済	学生起業で就業体験／和歌山大・島精機 夏から実施
2017年3月28日	火	わかやま新報	11面	地ビール名「あがら」／和大生と「三代目」のPJ
2017年3月29日	水	読売	地域	地ビール名に「あがら」／和歌山市初ブランド

【5】広報関係（WEB・学生用リーフ・紀の国大学パンフレット）

1. 紀の国大学ホームページ

（紀の国大学 http:// kinokuni-u.jp/　事務局 http://cocplus.wakayama-u.ac.jp/）

月	訪問延べ人数(人)	閲覧ページ数(PV)
4月	67	2,811
5月	294	9,122
6月	189	4,729
7月	187	3,931
8月	177	3,840
9月	186	4,560
10月	499	7,544
11月	718	8,268
12月	801	10,002
1月	554	6,022
2月	443	6,532

（2017 年 2 月 22 日現在）

2. 紀の国大学パンフレット

地(知)の拠点

事業協働機関の紹介

和歌山大学
COC+推進室(紀の国大学事務局)
TEL.073-457-7137
TEL.073-457-7147
coc+u@center.wakayama-u.ac.jp

大阪市立大学
プロジェクトマネジメントオフィス
TEL.06-6605-2068
pmo-coc@ado.osaka-cu.ac.jp

大阪府立大学
地域連携室COC事務局
TEL.072-254-8309
cocinfo@mi.osakafu-u.ac.jp

摂南大学
教務部教務課
TEL.072-839-9106
SETSUNAN.Kyomu@josho.ac.jp

和歌山工業高等専門学校
総務課
TEL.0738-29-8299
s-soumu@wakayama-nct.ac.jp

和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター
TEL.073-479-3330
kouhou@shinai-u.ac.jp

和歌山県(窓口) TEL.073-441-2108
和歌山県経営者協会 TEL.073-431-7376
紀陽銀行 TEL.0734-426-7126
和歌山県中小企業団体中央会 TEL.073-431-0832

協力校の紹介

和歌山県立医科大学
TEL.073-441-0801

近畿大学(生物理工学部)
TEL.0736-77-3888

関西大学
TEL.06-6368-1121

紀の国大学 紀の国大学

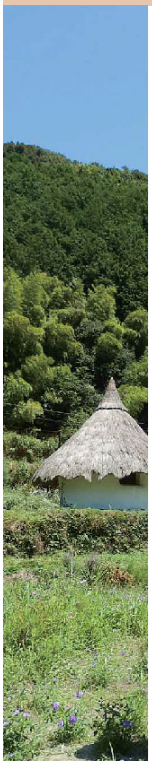
地(知)の拠点

地域・企業・自治体の皆さまへ

2016年4月にスタートする新事業

紀の国大学への ご参加・ご協力のお願い

"わかやま"ならではの多様な暮らしで
『未来』をつくる



紀の国大学への ご参加・ご協力をお待ちしています

地域の力を結集し、「わかやま」で「わかもの」を育てたい

文学、教育学、経済学、工学、理学…、既存の教育・研究の枠組みにとらわれず、和歌山の未来を切り拓く新たな知見を得るために、学生たちが「わかやま」という広いキャンパスへと飛び出します。

はるかな「わかやま」を想像し、ときめく「わかやま」を創造する

紀の国大学参加各校では、学生に「わかやま学」を共通の科目とし、和歌山の歴史・文化・風土について学びます。また、和歌山県の地方創生のテーマとなる様々な課題を現場の事例に即して考えるための基礎知識を修得します。
それらをふまえた学生達が、実際に地域へと飛びこんでいき、地域の皆さんと出会い、地域の「いま」を知り、直面している課題を発掘します。学生たちは皆さんと課題を共有しながら、大学と地域がそれぞれもっている知を結びつけた新たな知を提供して、課題解決を模索します。

「わかもの」を「わかやま」へ

紀の国大学では、各地から集まった学生達が地元の自治体・企業・団体の皆さんと出会い、課題を分かち、ともに考え、ともに「はたらく」ことで、地域と皆さんを元気にしていきます。

大学、地方公共団体、企業等の連携による教育

地方創生推進事業「紀の国大学」の目標

●和歌山県総合戦略の「5つの基本目標」〈和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略〉

基本目標①
安定した雇用を創出する
基本目標②
県への新しい人の流れを創造する
基本目標③
少子化をくい止める
基本目標④
安全・安心な暮らしを実現する
基本目標⑤
時代に合った地域をつくる

●和歌山県の強みを活かす「4つの教育テーマ」
①6次産業化 → ものをつくる!
②商品・技術開発 → しごとをつくる!
③移住先進地の再興 → ひとをつなぐ!
④命と生活のインフラ → まちをつくる!

●アウトカム(目標指標)「3つの目標」

[短期] 地元就職増 | [中短期] 雇用創出増 | [中期] 定住人口増

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「紀の国大学」の目標

区分	平成26年度	平成31年度
事業協働地域(和歌山県)へのインターンシップ参加	158人	400人
(うち和歌山大学)	68人	106人
事業協働地域(和歌山県)就職率	8%	18%
(うち和歌山大学)	20%	30%
事業協働機関雇用創出数	0人	10人

紀の国大学協議会会長あいさつ

紀の国大学は、文部科学省の推進する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の認定を受け、和歌山県の地域課題解決を推進する共同事業体です。
「地元の人々・企業・自治体を元気にする人材」・「地元で活躍できる人材」を育成すべく、県下全域をキャンパスとして、学生教育を展開して参ります。皆様方には、これまで培ってこられた知見を、授業の場で学生達にご講義いただければと思います。
また、学生達を現場に受け入れていただき、より実践的な知見をご教授いただくこお願い申し上げます。
紀の国大学はこれから地域と学生が互いに取り合いながら、わかやまの未来を切り開いていく事業です。
ご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

和歌山大学 副学長 重松

「紀の国大学」参加・協力のお願い
●地域の皆さんへ(現場での実務的教育の受け入れ、セミナー講師派遣)
●企業の皆さんへ(インターンシップの受け入れ、セミナー講師派遣)
●自治体の皆さんへ(まちづくり参画の受け入れ、セミナー講師派遣)

紀の国大学 紀の国大学

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築
平成 28 年度事業報告書

発　　行　　平成 28 年 3 月
編　　集　　紀の国大学協議会

問い合わせ先　　和歌山大学 COC+推進室
〒640-8510　和歌山県和歌山市栄谷 930
TEL　　073-457-7147
FAX　　073-457-8020
http:// kinokuni-u.jp/